

## 【交通の方法】

### 問 13 海上衝突予防法 1 行き会い船

① 接近する 2 隻の船舶に衝突するおそれがあるとき、互いに針路を右に転じなければならないのは、次のうちどの場合か。

(1) 動力船と動力船が真向かいに行き会う場合

(海上衝突予防法)

法)

(2) 帆船と帆船が真向かいに行き会う場合

(3) 動力船と帆船が真向かいに行き会う場合

(4) 動力船と漁労に従事している船舶が真向かいに行き会う場合

.....答 (1)

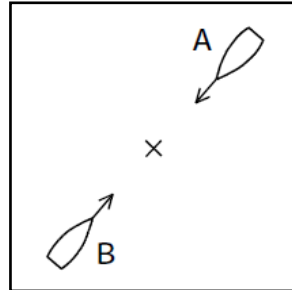
② 右図に示すように、航行中の 2 隻の動力船が真向かいに行き会い、×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

(1) A は急速に短音 5 回の汽笛信号を行い、速力を保つ。

(2) B は短音 3 回の汽笛信号を行い、針路を保つ。

(3) A、B ともに、針路を右に転じる。

(4) A、B ともに、針路を左に転じる。



.....答 (3)

③ 行会い船の航法について述べた次の文の(ア)と(イ)に当てはまる語句の組合せとして正しいものは、下のうちどれか。

「互いに他船の(ア)舷側を通過するよう、針路を(イ)に転じなければならない。」

(海上衝突予防法)

(1) ア: 左 イ: 左 (2) ア: 右 イ: 左 (3) ア: 左 イ: 右 (4) ア: 右 イ: 右

.....答 (3)

④ 航行中の 2 隻の動力船が真向かいに行き会い、衝突するおそれがあるとき、両船が互いにとらなければならない航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

(1) 針路、速力を保つ。 (2) 速力を落とす。

(3) 針路を右に転じる。 (4) 針路を左に転じる。

.....答 (3)

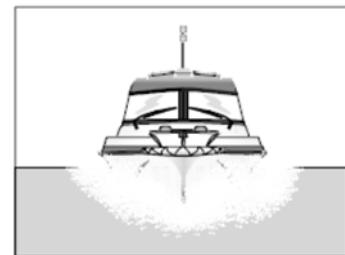
⑤ 昼間、航行中の A 動力船が、その船首方向に右図に示すような態勢で接近してくる B 動力船を認め、衝突するおそれがあると判断したときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

(1) 大幅に針路を左に転じ、左転時の操船信号を行う。

(2) B の左舷側を通過できるよう、大幅に右転する。

(3) 短音の汽笛信号を繰り返し行い、B に注意を呼びかける。

(4) 針路と速力を保って航行し、B の動きを見張る。



.....答 (2)

⑥ 行会い船の航法について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。(海上衝突予防法)

(1) 互いに他船の右舷側を通過するように、それぞれ針路を左に転じ、短音の汽笛信号を鳴らす。

(2) 互いに他船の左舷側を通過するように、それぞれ針路を右に転じ、長音の汽笛信号を鳴らす。

(3) 互いに他船の左舷側を通過するように、それぞれ針路を右に転じ、短音の汽笛信号を鳴らす。

(4) 互いに他船の右舷側を通過するように、それぞれ針路を左に転じ、長音の汽笛信号を鳴らす。

.....答 (3)

⑦ 航行中の動力船が、船首方向から近づいてくる他の動力船を認めた。自船が行き会いの状況にあり、衝突のおそれがあるかどうかを確かめることができない場合は、どのように判断し、行動しなければならないか。次のうちから選べ。(海上衝突予防法)

(1) 行き会いの状況であると判断し、針路を右に転じる。

(2) 行き会いの状況であると判断し、針路を左に転じる。

(3) 自船が保持船であると判断し、針路及び速力を保ったまま航行する。

(4) 自船が避航船であると判断し、針路を保ったまま速力を落とす。

.....答 (1)

⑧行会い船の航法について述べた次の文の( )の中に当てはまる適切な語句は、下のうちどれか。(海上衝突予防法)

「2隻の動力船が真向かいに行き会い、衝突するおそれがあるとき、各動力船はそれぞれ針路を( )に転じなければならない。」

- (1) 風上 (2) 風下 (3) 右 (4) 左

.....答 (3)

⑨行会い船の航法について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 速いほうの船が、他船の針路を避ける。
- (2) 遅いほうの船が、他船の針路を避ける。
- (3) 互いに他船の左舷側を通過するように、それぞれ針路を右に転じる。
- (4) 互いに他船の右舷側を通過するように、それぞれ針路を左に転じる。

.....答 (3)

⑩夜間航行中の動力船が、その船首方向に他の動力船のマスト灯、右舷灯及び左舷灯を認め、衝突するおそれがあるときは、どのような航法をとらなければならないか。次のうちから選べ。(海上衝突予防法)

- (1) 針路と速力を保って航行し、他船の動きを見張る。
- (2) 早めに、大幅に速力を落とし、他船の進路を避ける。
- (3) 針路を右に転じ、右転時の操船信号を行う。
- (4) 針路を左に転じ、左転時の操船信号を行う。

.....答 (3)

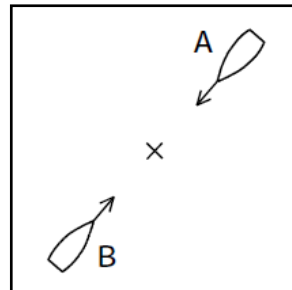
⑪夜間、航行中の2隻の動力船が、それぞれの船首方向に他の動力船のマスト灯、右舷灯及び左舷灯を認め、衝突するおそれがあるときは、どのような航法をとらなければならないか。次のうちから選べ。(海上衝突予防法)

- (1) 互いに大幅に針路を右に転じ、他船の進路を避ける。
- (2) 互いに大幅に針路を左に転じ、他船の進路を避ける。
- (3) 速いほうの船舶が、他船の進路を避ける。
- (4) 遅いほうの船舶が、他船の進路を避ける。

.....答 (1)

⑫右図に示すように、航行中の2隻の動力船が真向かいに行き会い、×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) A、Bともに、針路を左に転じる。
- (2) A、Bともに、針路を右に転じる。
- (3) AはBの進路を避け、Bは針路、速力を保つ。
- (4) BはAの進路を避け、Aは針路、速力を保つ。

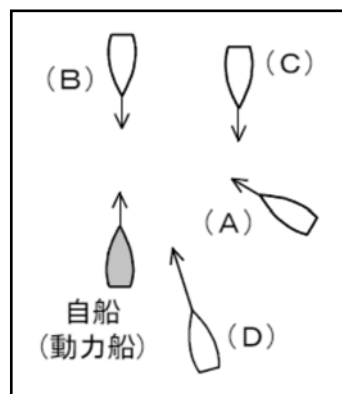


.....答 (2)

⑬右図は、自船(動力船)と他の動力船(A)～(D)との間の見合い関係を同時に示したものである。それぞれの場合に適用される航法について正しく分類したものは、下表のうちどれか。

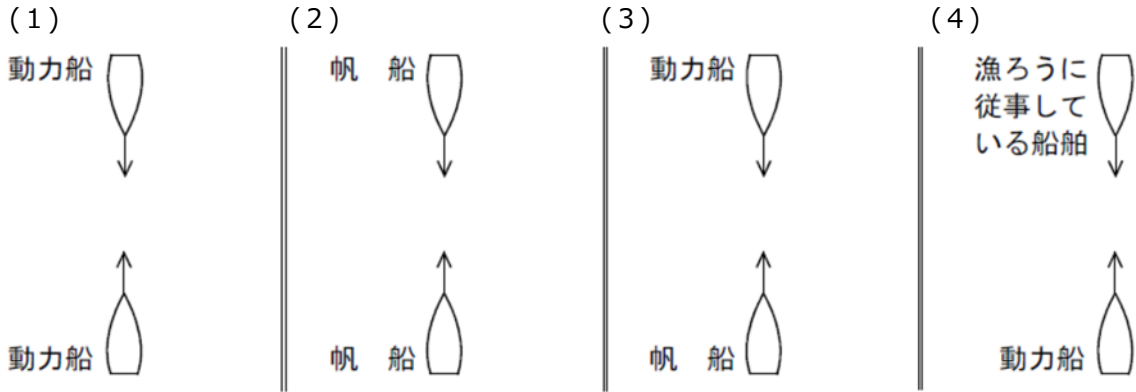
(海上衝突予防法)

	(A)	(B)	(C)	(D)
(1)	横切り船	行会い船	(適用除外)	追越し船
(2)	横切り船	(適用除外)	行会い船	追越し船
(3)	追越し船	行会い船	(適用除外)	横切り船
(4)	追越し船	横切り船	行会い船	(適用除外)



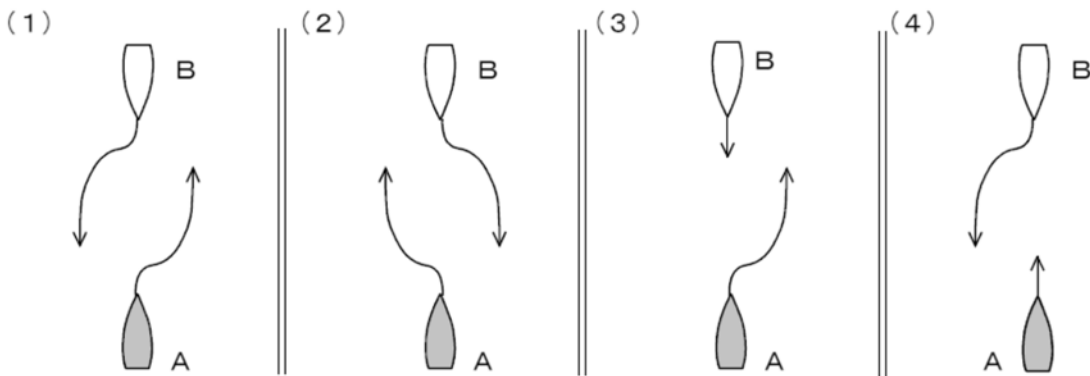
.....答 (1)

⑭航行中の2隻の船舶の間に衝突のおそれがあるとき、互いに他の船舶の左舷側<sup>びん</sup>を通過することができるようにそれぞれ針路を右に転じなければならないのは、次のうちどれか。  
(海上衝突予防法)



.....答 (1)

⑮航行中の2隻の動力船が真向かいに行き会い、衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、下図のうちどれか。  
(海上衝突予防法)



.....答 (1)

⑯夜間、航行中の動力船が、その船首方向に他の動力船の灯火を認めた。その船舶と衝突のおそれがあると判断し、「行会い船の航法」に基づいた動作をとらなければならないのは、次のうちどの場合か。  
(海上衝突予防法)

- (1) 他の動力船のマスト灯、右舷灯及び左舷灯を同時に認めたとき
- (2) 他の動力船のマスト灯と右舷灯を同時に認めたとき
- (3) 他の動力船のマスト灯と左舷灯を同時に認めたとき
- (4) 他の動力船の船尾灯を認めたとき

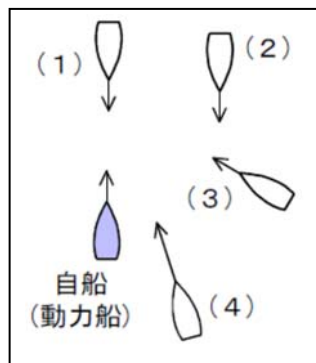
.....答 (1)

⑰航行中の2隻の動力船が真向かいに行き会い、衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。  
(海上衝突予防法)

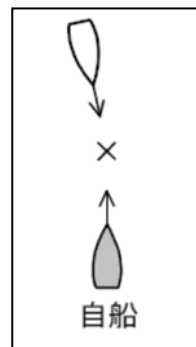
- (1) 互いに針路を右に転じる。
- (2) 速いほうの船舶が、他船の進路を避ける。
- (3) 互いに針路を左に転じる。
- (4) 遅いほうの船舶が、他船の進路を避ける。

.....答 (1)

⑱右図は、2隻の動力船の見合い関係を同時に示したものである。自船が他の動力船と衝突のおそれがあると判断し、「行会い船の航法」に基づいた動作を取らなければならないのは、図(1)～(4)のうちどの場合か。(海上衝突予防法)



⑱右図に示すように、2隻の動力船がほとんど真向かいに行き会う状態で接近し、自船は×印の付近で衝突するおそれがあると判断した。他の動力船に対して行会い船の状況にあるかどうかを確認することができない場合の航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)



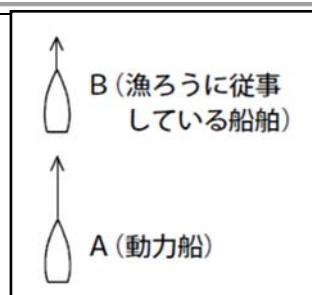
- (1) 横切りの状況にあると判断し、針路、速力を保つ。
- (2) 行き会いの状況にはないと判断し、針路、速力を保つ。
- (3) 行き会いの状況にあると判断し、針路を左に転じる。
- (4) 行き会いの状況にあると判断し、針路を右に転じる。

⑳衝突回避の動作が、「他の動力船の左舷側を通過することができるように針路を右に転じなければならない」と具体的に定められている航法は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 行会い船の航法 (2) 追越し船の航法 (3) 横切り船の航法 (4) 各種船舶間の航法

**問 14 海上衝突予防法 2 追い越し船**

①右図に示すように、航行中のA船がB船を追い越そうとする場合の航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

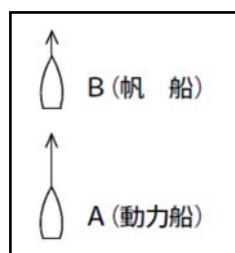


- (1) AはBに十分近づいて航行しなければならない。
- (2) Bは針路及び速力を保ち、十分に注意して航行しなければならない。
- (3) Aは早めに速力を落として航行しなければならない。
- (4) Bは操業を一時やめて航行しなければならない。

②追越し船の航法について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(海上衝突予防法)

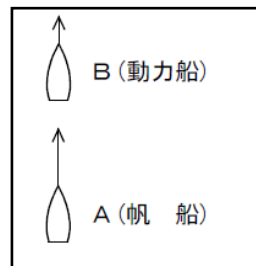
- (1) 他の船舶を追い越す船舶は、追い越される船舶の進路を十分に避けて航行する。
- (2) 他の船舶に追い越される船舶は、そのときの針路と速力を保って航行する。
- (3) 夜間、他の船舶の舷灯<sup>けんとう</sup>を見ることができる位置から追い越す場合は、追越し船と判断する。
- (4) 自船が追越し船であるかどうかを確認できないときは、追越し船と判断する。

③右図に示すように、航行中のA船がB船を追い越そうとする場合の航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)



- (1) Bは追い越される舷<sup>へん</sup>の反対側<sup>てんた</sup>に転航しなければならない。
- (2) Aは早めに速力を落として航行しなければならない。
- (3) AはBの進路を避けて航行しなければならない。
- (4) Bは帆を縮めて航行しなければならない。

④右図に示すように、航行中のA船がB船を追い越そうとする場合の航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)



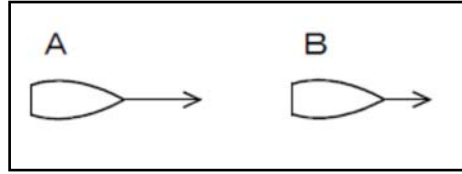
- (1) Aは帆を縮めて航行しなければならない。
- (2) Bは機関を止めて停船しなければならない。
- (3) Aは早めに速力を落として航行しなければならない。
- (4) Bは針路、速力を保ち、十分に注意して航行しなければならない。

⑤夜間、航行中のA動力船が、その船首方向に他の動力船の灯火を認めた。「追越し船の航法」に基づき、衝突のおそれがあると判断し、A船が避航動作をとらなければならないのは、他船のどのような灯火を認めたときか。次のうちから選べ。

- (1) 他の動力船のマスト灯と右舷灯 (2) 他の動力船のマスト灯、右舷灯及び左舷灯 (海上衝突予防法)  
 (3) 他の動力船のマスト灯と左舷灯 (4) 他の動力船の船尾灯のみ

.....答 (4)

⑥右図に示すように、広い水域において、航行中のA船がB船を追い越そうとする場合のA船の航法として誤っているものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)



- (1) できるだけBに近づいてから追い越すようにする。  
 (2) 安全な距離を保って、確実に追い越すようにする。  
 (3) 追い越した後も十分に遠ざかるまでBの進路を避ける。  
 (4) Aが追越し船かどうか確認できないときは、追越し船であると判断する。

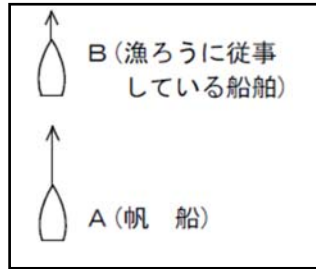
.....答 (1)

⑦追越し船の航法について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 夜間、他の船舶の舷灯が見えない位置からその船舶を追い越す場合は、追越し船と判断する。  
 (2) 自船が追越し船であるかどうかを確かめられない場合は、横切り船と判断する。  
 (3) 他の船舶に追い越される船舶は、そのときの針路と速力を保って航行する。  
 (4) 他の船舶を追い越す船舶は、追い越される船舶の進路を避けて航行する。

.....答 (2)

⑧右図に示すように、航行中のA船がB船を追い越そうとする場合の航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)



- (1) AはできるだけBに近づいて航行しなければならない。  
 (2) Bは針路、速力を保ち、十分に注意して航行しなければならない。  
 (3) Aは早めに帆を縮めて航行しなければならない。  
 (4) Bは操業を一時やめて停船しなければならない。

.....答 (2)

⑨広い水域において、他の船舶に追い越される船舶がとらなければならない動作は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) そのときの針路と速力を保って航行する。  
 (2) 追い越される舷の反対側に舵を取る。  
 (3) はっきり、早めに、大幅に速力を落とす。  
 (4) 追い越される舷を指定する汽笛信号を行う。

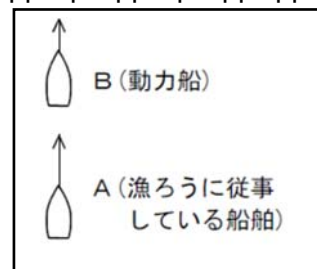
.....答 (1)

⑩夜間航行中のA船が、その船首方向に他の船舶の船尾灯のみを認め、そのまま航行すれば衝突するおそれがある場合、A船はどのような航法をとらなければならないか。次のうちから選べ。(海上衝突予防法)

- (1) そのときの針路と速力を保ち、十分に注意して航行する。  
 (2) 他の船舶の舷灯が見える位置まで近づく。  
 (3) 他の船舶の進路を避けて航行する。  
 (4) 早めに汽笛信号を行って、他の船舶に注意を呼びかける。

.....答 (3)

⑪右図に示すように、航行中のA船がB船を追い越そうとする場合の航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)



- (1) Bは針路、速力を保ち、十分に注意して航行しなければならない。  
 (2) AはBにできるだけ近づいて航行しなければならない。  
 (3) Bはできるだけ速力を落として航行しなければならない。  
 (4) Aは操業を一時やめて追越しを開始しなければならない。

.....答 (1)

⑫夜間、航行中のA動力船が、その真後ろに、マスト灯、右舷灯及び左舷灯を見せて接近してくる他の動力船を認めたとき、A船はどのような航法をとらなければならないか。次のうちから選べ。(海上衝突予防法)

- (1) 針路を右に転じなければならない。
- (2) 針路を左に転じなければならない。
- (3) そのときの針路と速力を保ち、十分に注意して航行しなければならない。
- (4) 速力を増して、他の動力船から遠ざからなければならない。

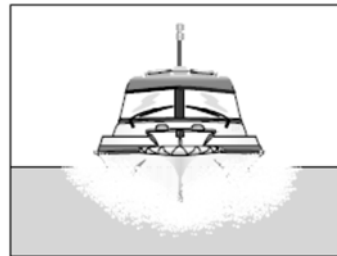
.....答 (3)

⑬海上衝突予防法で定める追越し船に該当しないものは、次のうちどれか。

- (1) 他船との見合い関係において、追越し船か横切り船かの判断に迷う船舶
- (2) 他の船舶の正横後22度30分よりも後方からその船舶を追い越す船舶
- (3) 夜間、他の船舶の舷灯が見える位置からその船舶を追い越す船舶
- (4) 夜間、他の船舶の船尾灯が見える位置からその船舶を追い越す船舶

.....答 (3)

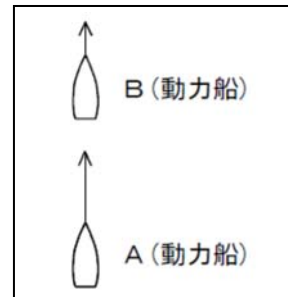
⑭昼間、航行中のA動力船が、その真後ろに右図に示すような態勢で接近してくるB動力船を認めたとき、A船はどのような航法をとらなければならないか。次のうちから選べ。



- (1) ゆっくりと小刻みに左転する。(海上衝突予防法)
- (2) ゆっくりと小刻みに右転する。
- (3) 速力を増し、Bから遠ざかる。
- (4) 針路と速力を保って航行し、Bの動きを見張る。

.....答 (4)

⑮右図に示すように、航行中のA船がB船を追い越す状況における航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

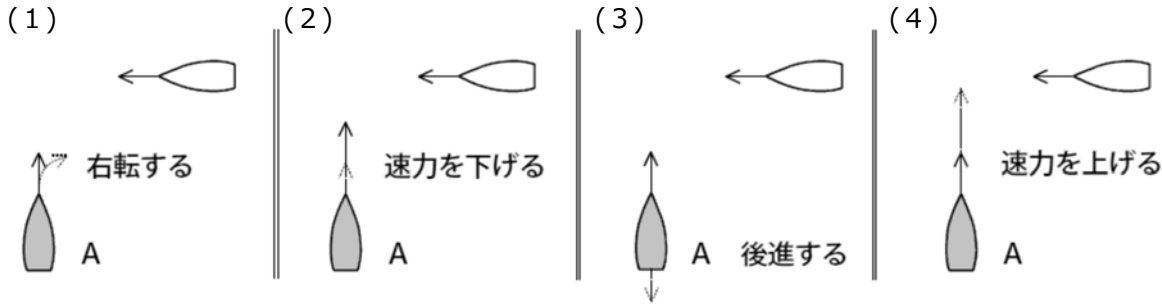


- (1) Aは針路を保って航行しなければならない。
- (2) Bは針路、速力を保ち、十分に注意して航行しなければならない。
- (3) Aは早めに速力を落として航行しなければならない。
- (4) Bは機関を止めて停船しなければならない。

.....答 (2)

問 15 海上衝突予防法 3 横切り船

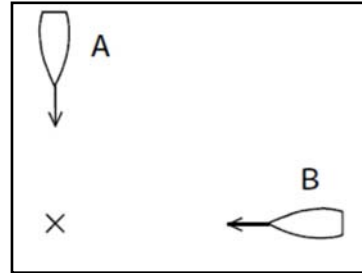
① 下図は、航行中の 2 隻の動力船が互いに進路を横切り、衝突するおそれがあるときの避航船 A の動作の具体例を示したものである。やむを得ない場合を除き、A 船がとってはならない避航動作は、図(1)～(4)のうちどれか。(海上衝突予防法)



.....答 (4)

② 右図に示すように、航行中の 2 隻の動力船が互いに進路を横切り、×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) A は針路、速力を保ち、B が A の進路を避ける。
- (2) B は針路、速力を保ち、A が B の進路を避ける。
- (3) A、B とともに針路を右に転じ、他船の進路を避ける。
- (4) 速いほうの船舶が、他船の進路を避ける。



.....答 (1)

③ 夜間航行中の A 動力船が、その右舷前方に、他の動力船のマスト灯と左舷灯を認め、衝突するおそれがあると判断したときに、とらなければならない措置として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) そのときの針路と速力を保ち、十分に注意して航行する。
- (2) できる限り早めに、はっきりとわかる動作をとって、他の動力船の進路を避ける。
- (3) 直ちに急速に短音 5 回以上の汽笛信号を行う。
- (4) 他の動力船の操船信号を確認するまで、長音 1 回の汽笛信号を行う。

.....答 (2)

④ 横切り船の航法において、避航船が保持船に対し、やむを得ない場合を除いてとってはならない動作は、次のうちどれか。

- (1) 針路を左に転じること
- (2) 船尾方向を横切ること
- (3) 船首方向を横切ること
- (4) 機関を後進にかけること

(海上衝突予防法)

.....答 (3)

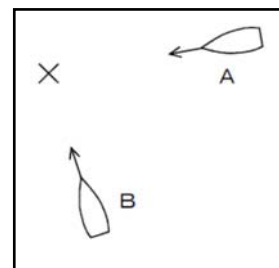
⑤ 夜間航行中の A 動力船が、前方に他の動力船の灯火を認め、そのまま航行すれば衝突するおそれがあるため「横切り船の航法」に基づいて避航動作をとった。A 船が認めた他の動力船の灯火は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) マスト灯と右舷灯
- (2) マスト灯と左舷灯
- (3) 右舷灯と左舷灯
- (4) 船尾灯

.....答 (2)

⑥ 右図に示すように、航行中の 2 隻の動力船が互いに進路を横切り×印の付近で衝突するおそれがあるとき、A 船がとらなければならない航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 機関を停止して、B が通り過ぎるのを待つ。
- (2) 針路を右に転じ、右転時の操船信号を行う。
- (3) 針路を左に転じ、左転時の操船信号を行う。
- (4) そのときの針路と速力を保ち、十分に注意して航行する。



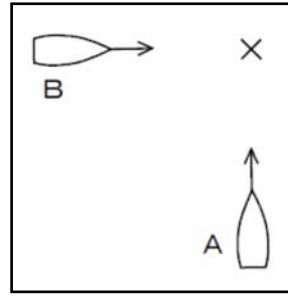
.....答 (4)

⑦航行中の2隻の動力船が互いに進路を横切り衝突するおそれがあるとき、他の船舶の進路を避けなければならない船舶は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 他船より動きが素早い動力船
- (2) 他船より先に警告信号を行った動力船
- (3) 他船を右舷側に見る動力船
- (4) 他船を先に見つけた動力船

.....答 (3)

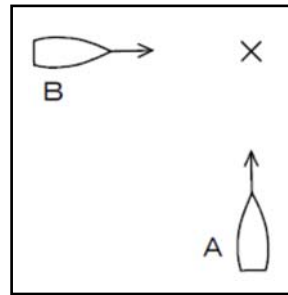
⑧右図に示すように、航行中の2隻の動力船が互いに進路を横切り×印の付近で衝突するおそれがあるとき、A船はB船の短音1回の汽笛信号を聞いた。この場合、A船がとらなければならない航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)



- (1) 短音1回の汽笛信号を行って、Bの信号に応答する。
- (2) 機関を後進にかけて、急速に短音5回の汽笛信号を行う。
- (3) そのときの針路と速力を保ち、十分に注意して航行する。
- (4) 針路を左に転じ、長音2回の汽笛信号を行う。

.....答 (3)

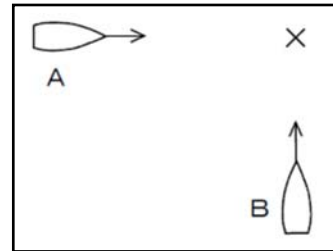
⑨右図に示すように、航行中の2隻の動力船が互いに進路を横切り×印の付近で衝突するおそれがあるとき、A船がとらなければならない航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)



- (1) そのときの針路と速力を保ち、十分に注意して航行する。
- (2) 針路を右に転じ、右転時の操船信号を行う。
- (3) 針路を左に転じ、左転時の操船信号を行う。
- (4) 機関を停止して、Bが通り過ぎるのを待つ。

.....答 (1)

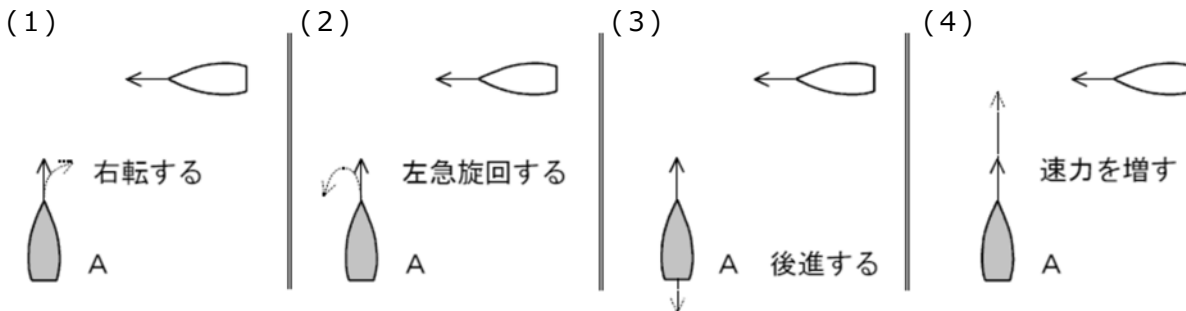
⑩右図に示すように、航行中の2隻の動力船が互いに進路を横切り、×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)



- (1) Aは針路、速力を保ち、BがAの進路を避ける。
- (2) Bは針路、速力を保ち、AがBの進路を避ける。
- (3) A、Bともに針路を左に転じ、他船の進路を避ける。
- (4) Aは速力を増して、Bの船首方向を横切る。

.....答 (2)

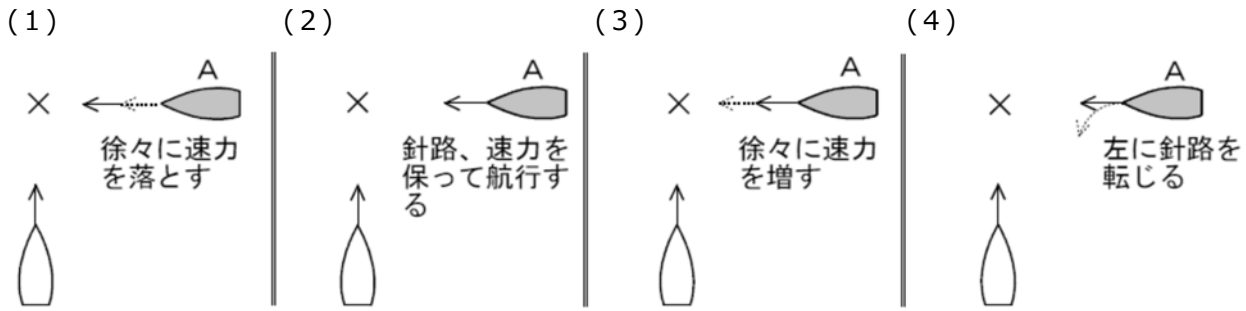
⑪下図は、航行中の2隻の動力船が互いに進路を横切り、衝突するおそれがあるときのA船の動作の具体例を示したものである。やむを得ない場合を除き、A船がとってはならない避航動作は、図(1)～(4)のうちどれか。(海上衝突予防法)



.....答 (4)

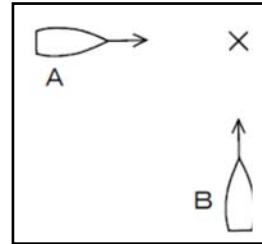


⑫ 下図は、航行中の2隻の動力船が互いに進路を横切り×印の付近で衝突するおそれがあるときのA船の動作の具体例を示したものである。横切り船の航法として正しいものはどれか。(海上衝突予防法)



.....答 (2)

⑬ 右図に示すように、航行中の2隻の動力船が互いに進路を横切り×印の付近で衝突するおそれがあるとき、やむを得ない場合を除き、A船がとってはならない避航動作は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)



- (1) Bの船尾方向を横切ること
- (2) Bの船首方向を横切ること
- (3) 針路を左に転じること
- (4) 機関を後進にかけること

.....答 (2)

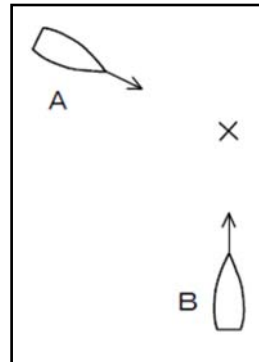
⑭ 横切り船の航法について述べた次の文の( )の中に当てはまる適切な語句は、下のうちどれか。

「2隻の動力船が互いに進路を横切り衝突するおそれがあるとき、他の動力船の進路を避けなければならないのは、他の動力船を( )に見る動力船である。」(海上衝突予防法)

- (1) 風上側
- (2) 風下側
- (3) 右舷側
- (4) 左舷側

.....答 (3)

⑮ 右図に示すように、航行中の2隻の動力船が互いに進路を横切り×印の付近で衝突するおそれがあるとき、A船が適切な避航動作をとっていないことが明らかになったため、B船が衝突を避けるための動作をとるときは、やむを得ない場合を除き、どのような動作をとってはならないか。次のうちから選べ。(海上衝突予防法)



- (1) 針路を右に転じること
- (2) 針路を左に転じること
- (3) 機関を停止すること
- (4) 機関を後進にかけること

.....答 (2)

**問 16 海上衝突予防法 4 避航船・保持船**

①衝突を避けるための動作について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 十分に余裕のある時期にためらわずに行う。
- (2) 船舶の運用上の適切な慣行に従って行う。
- (3) 針路又は速力の変更は、小刻みに行う。
- (4) 他船との間に安全な距離を保って通過できるように行う。

.....答 (3)

②衝突を避けるための動作について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 時間的に十分な余裕があるときは、さらに近づいて他船の動きを確かめる。
- (2) 針路又は速力の変更は、他船にはっきりとわかるよう、大幅に行う。
- (3) 他船との間に安全な距離を保って通過することができるように動作をとる。
- (4) 避航動作の効果、他船が十分に遠ざかるまで注意深く確かめる。

.....答 (1)

③保持船の航法について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 衝突するおそれがあると判断したときの針路と速力を保って航行する。
- (2) 避航船の動作を見張っている合図として、長音 1 回の汽笛信号を行う。
- (3) 避航船が十分な避航動作をとっていることについて疑いがあるときは、直ちに警告信号を行う。
- (4) 避航船の動作のみでは衝突が避けられないと認めるときは、衝突を避けるための最善の協力動作をとる。

.....答 (2)

④避航船が適切な動作をとっていないことが明らかとなったため、保持船が避航船との衝突を避けるためにとった次の動作のうち、適切ではないものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 左舷<sup>ひだり</sup>から近づいてくる動力船が全く避航動作をとらず、動力船である自船と著しく<sup>いちじるしく</sup>近づくおそれがあったため、これをかわそうと左転した。
- (2) 自船を追い越そうとする動力船が針路をほとんど変更せず、自船と著しく近づくおそれがあったため、警告信号を発した。
- (3) 自船が漁ろうに従事している最中、右舷前方から動力船が急に近づいてきて危険な状態となるおそれがあったため、これをかわそうと機関を後進にかけた。
- (4) 自船が帆のみを用いて航行中、風上から同じ舷に風を受ける帆船が近づいて危険な状態となるおそれがあったため、これをかわそうと停船した。

.....答 (1)

⑤海上衝突予防法の規定による「保持船」に該当しないものは、次のうちどれか。

- (1) 帆船に追い越される動力船
- (2) 左舷<sup>ひだり</sup>に見る帆船の進路を横切る動力船
- (3) 動力船と行き会う漁ろう中の船舶
- (4) 動力船の進路を横切る操縦性能制限船

.....答 (2)

⑥衝突を避けるための動作をとる際の実施上の注意事項を示した次の文のうち、誤っているものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 避航動作は早めに行う。
- (2) 速力の変更は少しずつ行う。
- (3) 針路の変更は大幅に行う。
- (4) 他船との距離は十分に離す。

.....答 (2)

⑦海上衝突予防法の規定による「避航船」に該当しないものは、次のうちどれか。

- (1) 動力船を追い越す帆船
- (2) 帆船の進路を横切る動力船
- (3) 操縦性能制限船と行き会う帆船
- (4) 動力船と行き会う漁ろうに従事している船舶

.....答 (4)

⑧海上衝突予防法の規定による「避航船」に該当するものは、次のうちどれか。

- (1) 動力船を追い越す帆船
- (2) 左舷<sup>ひだり</sup>に見る他の動力船の進路を横切る動力船
- (3) 帆船の進路を横切る操縦性能制限船
- (4) 動力船と行き会う漁ろうに従事している船舶

.....答 (1)

⑨保持船について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) この法律の規定により、2隻の船舶のうち1隻の船舶が他の船舶の進路を避けなければならない場合、他の船舶はその針路及び速力を保たなければならない。
- (2) 避航船が衝突を避けるために十分な動作をとっていることについて疑いがあるときは、直ちに警告信号を行わなければならない。
- (3) 避航船との間に衝突のおそれがあると判断し、避航船の動作を待たずに衝突を避けるための動作をとる場合は、横切り船であれば針路を左に転じなければならない。
- (4) 避航船と間近に近づいたため、避航船の動作だけでは衝突を避けることができないと判断した場合は、衝突を避けるための最善の協力動作をとらなければならない。

.....答 (3)

⑩避航船及び保持船の航法について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

(海上衝突予防法)

- (A) 避航船は、他の船舶との衝突を避けるための針路又は速力の変更を行うときは、できる限り近づいて他船の動きを確認してからその動作をとらなければならない。
  - (B) 保持船は、避航船が衝突を避けるために十分な動作をとっていることについて疑いがあるときは、直ちに警告信号を行わなければならない。
- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (2)

⑪避航船及び保持船について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 避航船は、できる限り早い時期に、大幅に動作をとって避航しなければならない。
- (2) 保持船は、避航船の動作をよく見張り、必要に応じて警告信号を行わなければならない。
- (3) 避航船は、保持船が適切な動作をとっていることが明らかになった場合は、自由に航行することができる。
- (4) 保持船は、避航船が適切な動作をとっていないことが明らかになった場合は、直ちに衝突を避けるための動作をとることができる。

.....答 (3)

⑫避航船及び保持船の航法について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 避航船は、保持船との衝突を避けるための動作を、十分に余裕のある時期に、ためらわずにとらなければならない。
- (2) 避航船は、保持船との衝突を避けるための動作は針路の変更のみによって行い、速力を落としたり停船してはならない。
- (3) 保持船は、避航船が衝突を避けるために十分な動作をとっていることについて疑いがある場合は、直ちに警告信号を行わなければならない。
- (4) 保持船は、避航船の動作だけでは衝突が避けられないと判断した場合は、衝突を避けるための最善の協力動作をとらなければならない。

.....答 (2)

⑬保持船の航法について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 避航船が衝突を避けるために十分な動作をとっていることについて疑いがあるときは、直ちに警告信号を行わなければならない。
- (2) 避航船と間近に近づいたため、避航船の動作だけでは衝突を避けることができないと判断した場合は、衝突を避けるための最善の協力動作をとらなければならない。
- (3) 避航船が適切な動作をとっていないことが明らかになった場合は、直ちに針路を左に転じなければならない。
- (4) 差し迫った危険のある特殊な状況にあると判断した場合は、この法律の規定によらずに衝突を避けるための動作をとることができる。

.....答 (3)

⑭避航船及び保持船の航法について述べた次の(A)及び(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

(海上衝突予防法)

- (A) 避航船は、他の船舶との衝突を避けるための針路又は速力の変更を行う場合は、できる限りその変更を他の船舶がはっきりと認めることができるように大幅に行わなければならない。
  - (B) 保持船は、避航船と近づきすぎたため、その避航船の動作だけでは衝突を避けることができないと判断した場合は、衝突を避けるための最善の協力動作をとらなければならない。
- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (3)

⑮避航船及び保持船の航法について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

(海上衝突予防法)

(A) 避航船は、他の船舶との衝突を避けるための針路又は速力の変更を行う場合は、できる限り小刻みに、ゆっくりと行わなければならない。

(B) 保持船は、避航船が衝突を避けるために十分な動作をとっていることについて疑いがあるときは、直ちに警告信号を行わなければならない。

- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (2)

⑯避航船の航法について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。(海上衝突予防法)

(1) 衝突するおそれがあると判断したときの針路と速力を保って航行する。

(2) できる限り、十分余裕のある時期に、ためらわずに避航動作をとる。

(3) 直ちに急速に短音 5 回以上の汽笛信号を行う。

(4) 他の船舶の操船信号を確認するまで、長音 1 回の汽笛信号を行う。

.....答 (2)

⑰保持船の航法について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(海上衝突予防法)

(1) 衝突するおそれがあると判断したときの針路と速力を保たなければならない。

(2) 避航船の動作を見張っている合図として、長音 1 回の汽笛信号を行わなければならない。

(3) 避航船が十分な避航動作をとっていることについて疑いがあるときは、直ちに警告信号を行わなければならない。

(4) 避航船の動作のみでは衝突が避けられないと認めるときは、衝突を避けるための最善の協力動作をとらなければならない。

.....答 (2)

⑱海上衝突予防法の規定による「保持船」に該当しないものは、次のうちどれか。

(1) 帆船に追い越される動力船

(2) 左舷に見る帆船の進路を横切る動力船

(3) 動力船の進路を横切る操縦性能制限船

(4) 動力船と行き会う漁ろうに従事している船舶

.....答 (2)

⑲衝突を避けるための動作をとる際の注意事項として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

(1) 避航動作は、十分に近づいてから行う。

(2) 速力の変更は、少しずつ行う。

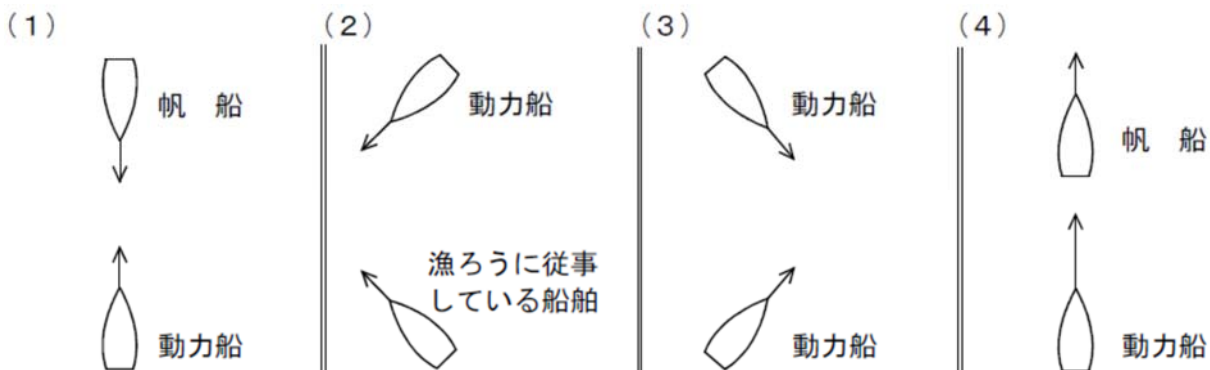
(3) 針路の変更は、小角度で小刻みに行う。

(4) 他船との距離は、十分に離す。

.....答 (4)

⑳保持船の航法において、避航船が適切な避航動作をとっていないことが明らかになったため、保持船が衝突を避けるための動作をとろうとするとき、やむを得ない場合を除き、針路を左に転じてはならない場合に該当するものは、次のうちどれか。

(海上衝突予防法)



.....答 (3)

② 避航船が適切な動作をとっていないことが明らかとなったため、保持船が避航船との衝突を避けるためにとった次の動作のうち、適切でないものはどれか。 (海上衝突予防法)

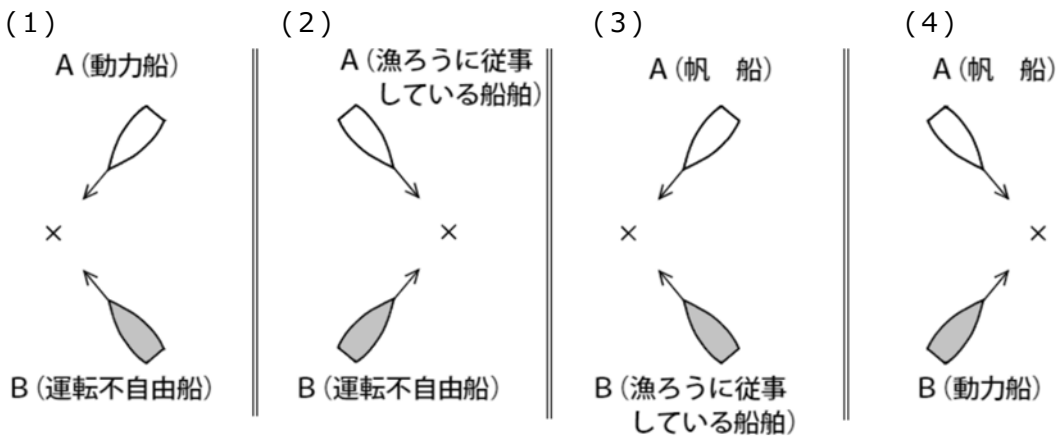
- (1) 左舷から近づいてくる動力船が全く避航動作をとらず、動力船である自船と著しく近づくおそれがあったため、これを避けようと左転した。
- (2) 自船を追い越そうとする動力船が針路をほとんど変更せず、自船と著しく近づくおそれがあったため、警告信号を発した。
- (3) 自船が漁ろうに従事している最中、右舷前方から動力船が急に近づいてきて危険な状態となる おそれがあったため、これを避けようと機関を後進にかけた。
- (4) 自船が帆のみを用いて航行中、正面から動力船が近づいてきて危険な状態となるおそれがあったため、これを避けようと右転し停船した。

.....答 (1)

**問 17 海上衝突予防法 5 各種船舶間の航法**

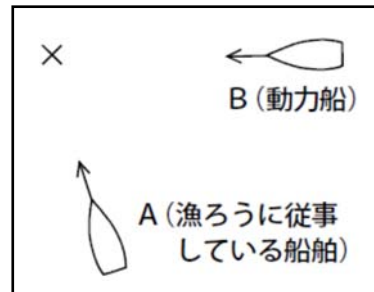
① 下図は、航行中のA船とB船が互いに進路を横切り、×印の付近で衝突するおそれがあるときの状況を示したものである。

B船が避航船となるのはどの場合か。次のうちから選べ。 (海上衝突予防法)



.....答 (4)

② 右図に示すように、航行中の2隻の船舶が互いに進路を横切り、×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。 (海上衝突予防法)



- (1) Aは針路、速力を保ち、BがAの進路を避ける。
- (2) Bは針路、速力を保ち、AがBの進路を避ける。
- (3) Aは操業を一時やめて停船し、機関を停止する。
- (4) Bはできる限り速力を上げて、Aの船首方向を横切る。

.....答 (1)

③ 各種船舶間の航法において、次の(ア)～(ウ)の船舶の優先順位(それぞれ2隻の船舶間において保持船となるものを上位とする)を上位から下位に正しい順序で並べたものは、下のうちどれか。

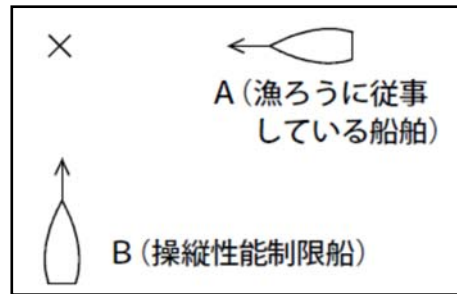
- (ア) 帆 船 (海上衝突予防法)
- (イ) 操縦性能制限船
- (ウ) 漁ろうに従事している船舶

- (1) (ア) → (イ) → (ウ)      (2) (イ) → (ア) → (ウ)
- (3) (イ) → (ウ) → (ア)      (4) (ウ) → (ア) → (イ)

.....答 (3)

④右図に示すように、航行中の2隻の船舶が互いに進路を横切り、×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

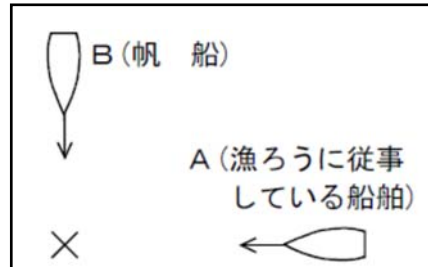
- (1) Aは針路、速力を保ち、BがAの進路を避ける。
- (2) Bは針路、速力を保ち、AがBの進路を避ける。
- (3) A、Bともに針路を右に転じ、他船の進路を避ける。
- (4) Aはできる限り速力を上げて、Bの船首方向を横切る。



.....答 (2)

⑤右図に示すように、航行中の2隻の船舶が×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

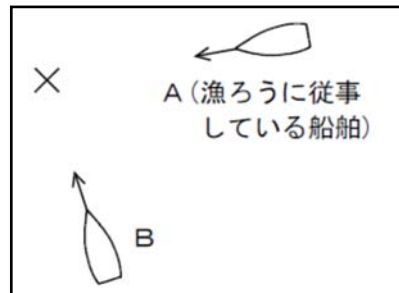
- (1) Aは針路、速力を保ち、BがAの進路を避ける。
- (2) Bは針路、速力を保ち、AがBの進路を避ける。
- (3) Aは操業を一時やめて停船し、機関を停止する。
- (4) A、Bともに針路を右に転じ、他船の進路を避ける。



.....答 (1)

⑥右図に示すように、航行中の2隻の船舶が×印の付近で衝突するおそれがあるとき、できる限り、A船が進路を避けなければならぬと定められているのは、B船がどのような船舶である場合か。次のうちから選べ。(海上衝突予防法)

- (1) 操縦性能制限船      (2) 漁ろうに従事している船舶
- (3) 帆船                      (4) 動力船



.....答 (1)

⑦下図は、航行中のA船とB船が×印の付近で衝突するおそれがあるときの状況を示したものである。A船が避航船となるのは、次のどの場合か。(海上衝突予防法)

(1)  
A (運転不自由船)  
B (動力船)

(2)  
A (運転不自由船)  
B (帆船)

(3)  
A (操縦性能制限船)  
B (動力船)

(4)  
A (帆船)  
B (漁ろうに従事している船舶)

.....答 (4)

⑧各種船舶間の航法における、避航船と保持船の関係を示した下表のうち、誤っているものはどれか。(海上衝突予防法)

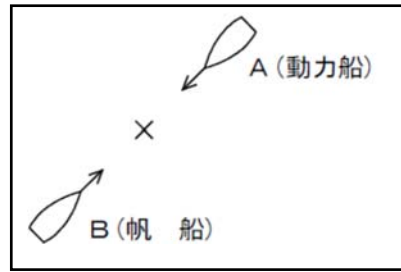
	避航船	保持船
(1)	帆船	操縦性能制限船
(2)	帆船	運転不自由船
(3)	動力船	漁ろうに従事している船舶
(4)	漁ろうに従事している船舶	帆船

.....答 (4)

⑨右図に示すように、航行中の2隻の船舶が×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。

(海上衝突予防法)

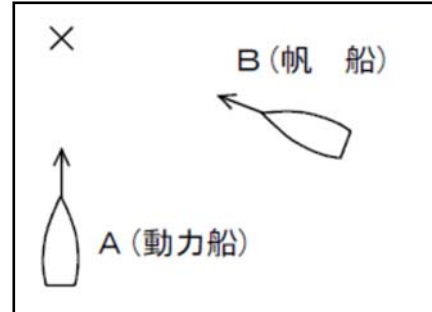
- (1) BがAの進路を避け、Aは針路、速力を保つ。
- (2) AがBの進路を避け、Bは針路、速力を保つ。
- (3) A、Bともに針路を左に転じ、他船の進路を避ける。
- (4) A、Bともに針路を右に転じ、他船の進路を避ける。



.....答 (2)

⑩航行中の2隻の船舶が、右図に示す状況において×印の付近で衝突するおそれがある場合に適用される航法は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 帆船の航法
- (2) 横切り船の航法
- (3) 各種船舶間の航法
- (4) 追越し船の航法

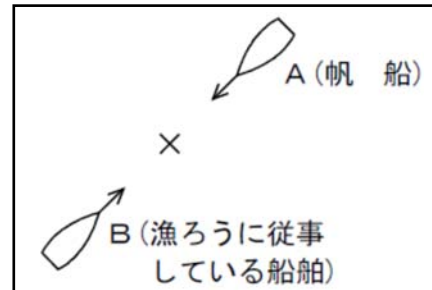


.....答 (3)

⑪右図に示すように、航行中の2隻の船舶が×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。

(海上衝突予防法)

- (1) Aは針路、速力を保ち、BがAの進路を避ける。
- (2) Bは針路、速力を保ち、AがBの進路を避ける。
- (3) A、Bともに針路を右に転じ、他船の進路を避ける。
- (4) Bは操業を一時やめて、速力を落とす。

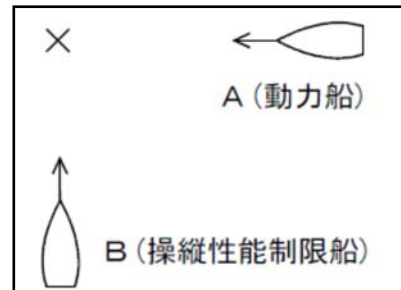


.....答 (2)

⑫右図に示すように、航行中の2隻の船舶が×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。

(海上衝突予防法)

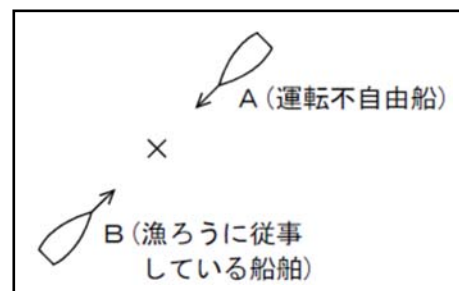
- (1) AがBの進路を避ける。
- (2) BがAの進路を避ける。
- (3) A、Bともに針路を右に転じ、他船の進路を避ける。
- (4) Aはできるだけ速力を上げて、Bの船首方向を横切る。



.....答 (1)

⑬右図に示すように、航行中の2隻の船舶が×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

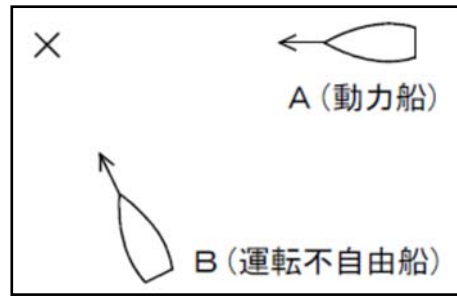
- (1) できる限りBがAの進路を避ける。
- (2) できる限りAがBの進路を避ける。
- (3) A、Bともに、針路を右に転じる。
- (4) 全長が短いほうの船舶が、他船の進路を避ける。



.....答 (1)

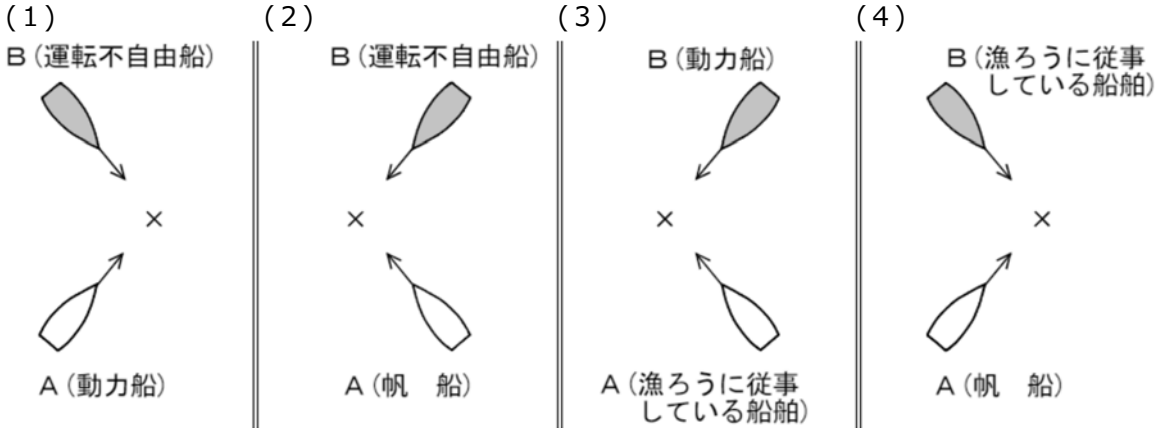
⑭右図に示すように、航行中の2隻の船舶が×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) BがAの進路を避ける。
- (2) AがBの進路を避ける。
- (3) A、Bともに針路を右に転じ、他船の進路を避ける。
- (4) 速いほうの船舶が、他船の進路を避ける。



.....答 (2)

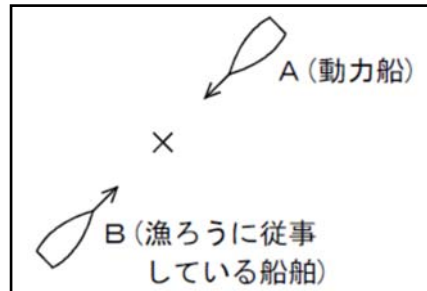
⑮下図は、航行中のA船とB船が×印の付近で衝突するおそれがあるときの状況を示したものである。B船が避航船となるのは、次のどの場合か。(海上衝突予防法)



.....答 (3)

⑯右図に示すように、航行中の2隻の船舶が×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

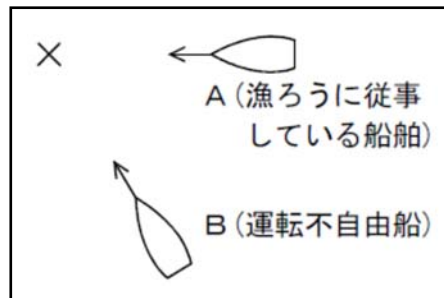
- (1) Aは針路、速力を保ち、BがAの進路を避ける。
- (2) Bは針路、速力を保ち、AがBの進路を避ける。
- (3) A、Bともに針路を右に転じ、他船の進路を避ける。
- (4) 速いほうの船舶が、他船の進路を避ける。



.....答 (2)

⑰右図に示すように、航行中の2隻の船舶が×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

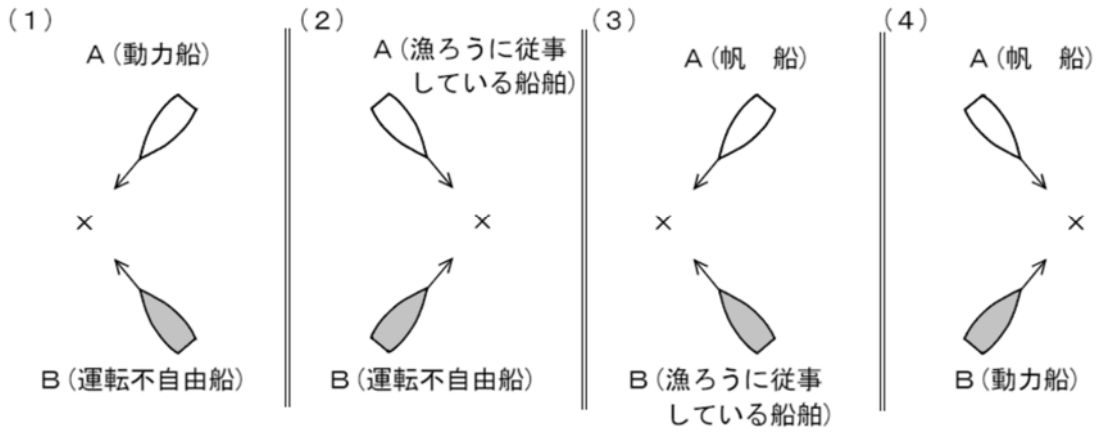
- (1) できる限りBがAの進路を避ける。
- (2) できる限りAがBの進路を避ける。
- (3) A、Bともに針路を右に転じ、他船の進路を避ける。
- (4) Aはできる限り速力を上げて、Bの船首方向を横切る。



.....答 (2)



⑱ 下図は、航行中のA船とB船が×印の付近で衝突するおそれがあるときの状況を示したものである。B船が避航船となるのはどの場合か。次のうちから選べ。  
(海上衝突予防法)



..... 答 (4)

**問 18 海上衝突予防法 6 見張り・安全な速力・衝突のおそれ**

①見張りについて述べた次の文のうち、正しいものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 衝突のおそれを早い時期に判断するため、前方の見張りに集中する。
- (2) 自船の周囲に船舶が存在するときだけ行うようにする。
- (3) 目や耳による直接の見張りだけでなく、レーダーなども活用する。
- (4) 双眼鏡は見える範囲が狭くなるので、なるべく使わないようにする。

.....答 (3)

②安全な速力の決定にあたって特に考慮しなければならない事項として規定されているものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 視界の状態 (2) 燃料の残量 (3) 帰港予定時刻 (4) 他船の速力

.....答 (1)

③安全な速力の決定にあたって特に考慮しなければならない事項として規定されているものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 他船の速力 (2) 視界の状態 (3) 帰港予定時刻 (4) 目的地までの距離

.....答 (2)

④近づいてくる他の船舶のコンパス方位に明らかな変化が認められる場合であっても、これと衝突するおそれがあり得ることを考慮しなければならないのは、相手船がどのような船舶の場合か。次のうちから選べ。(海上衝突予防法)

- (1) 漁ろうに従事している船舶 (2) 帆船
- (3) 曳航作業えいこうに従事している船舶 (4) 浚渫作業しゅんせつに従事している船舶

.....答 (3)

⑤見張りについて述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 船舶に死角がある場合は、ときどき見張りの位置を変えて行う。
- (2) 航行中や錨泊中にかかわらず、常に行う。
- (3) その時の状況に適したすべての手段により、適切に行う。
- (4) 夜間は周囲が見えないので、レーダーによる見張りだけを行う。

.....答 (4)

⑥安全な速力の決定にあたって特に考慮しなければならない事項として規定されていないものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 自船の操縦性能 (2) 他船の速力
- (3) 航路障害物に近づいた状態 (4) 船舶交通の混み具合

.....答 (2)

⑦安全な速力の決定にあたって特に考慮しなければならない事項として規定されているものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 帰港予定時刻 (2) 燃料の残量
- (3) 船舶交通の混み具合 (4) 船の定員

.....答 (3)

⑧他の船舶と衝突するおそれがあるかどうかを確かめることができない場合は、どのように判断しなければならないか。次のうちから選べ。(海上衝突予防法)

- (1) 自船が保持船である。 (2) 自船が避航船である。
- (3) 衝突するおそれがある。 (4) 衝突するおそれはない。

.....答 (3)

⑨衝突のおそれについて述べた次の文の( )の中に当てはまる適切な語句は、下のうちどれか。(海上衝突予防法)

「近づいてくる他の船舶の( )に明らかな変化がないときは、これと衝突するおそれがあると判断しなければならない。」

- (1) コンパス方位 (2) 速力 (3) 針路 (4) 走行姿勢

.....答 (1)

⑩安全な速力について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選べ。(海上衝突予防法)

- (A) 適切かつ有効な避航動作をとることができる速力をいう。
- (B) そのときの状況に適した距離で停止することができる速力をいう。

- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) とともに正しい (4) とともに誤っている

.....答 (3)

⑪安全な速力の決定にあたって特に考慮しなければならない事項として規定されていないものは、次のうちどれか。 (海上衝突予防法)

- (1) 視界の状態 (2) 船舶交通の混み具合  
(3) 自船の操縦性能 (4) 他船の速力

.....答 (4)

⑫安全な速力の決定にあたって特に考慮しなければならない事項として規定されているものは、次のうちどれか。 (海上衝突予防法)

- (1) 目的地までの距離 (2) 他船の速力  
(3) 帰港予定時刻 (4) 自船の操縦性能

.....答 (4)

⑬安全な速力とはどのような速力をいうか。次のうちから正しいものを選び。(海上衝突予防法)

- (1) 他の船舶に危険を及ぼさない速力 (2) 衝突を避けるための適切な動作がとれる速力  
(3) 周囲の安全確認が適切に行える速力 (4) 12 ノットを超えない速力

.....答 (2)

⑭見張りについて述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。 (海上衝突予防法)

- (1) その時の状況に適したすべての手段により、適切に行う。  
(2) 航行中は進行方向の見張りに意識を集中して行う。  
(3) 船舶に死角がある場合は、ときどき見張りの位置を変えて行う。  
(4) 航行中や錨泊中にかかわらず、常に行う。

.....答 (2)

⑮海上衝突予防法に定める安全な速力とはどのような速力をいうか。次のうちから正しいものを選び。

- (1) 他船に危険を及ぼさない速力 (2) 状況に適した距離で停止できる速力  
(3) 12 ノット以下の速力 (4) 最大速力の約半分の速力

.....答 (2)

⑯安全な速力の決定にあたって特に考慮しなければならない事項として規定されていないものは、次のうちどれか。

(海上衝突予防法)

- (1) 燃料の残量 (2) 視界の状態 (3) 風、海面及び海潮流の状態 (4) 船舶交通の混み具合

.....答 (1)

⑰他の船舶と衝突する切迫した危険がある特殊な状況において、その危険を避 けるための行動として適切なものは次のうちどれか。

(海上衝突予防法)

- (1) この法律の規定を厳格に遵守して航行する。  
(2) この法律の規定によらないで航行することができる。  
(3) この法律の規定に類似した陸上の法令に従い航行する。  
(4) この法律の規定が及ばない船舶として航行することができる。

.....答 (2)

⑱海上衝突予防法の規定の適用について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちからあてはまるものを選び。

(A) 港則法で定められた航路をこれに沿って航行する船舶が、航路外から航路 に入ろうとする他の船舶と衝突するおそれがある場合は、海上衝突予防法の規定 に従い、その針路及び速力を保たなければならない。

(B) 夜間、海上交通安全法に定められた海域を航行している危険物積載船は、同法に定められた当該船舶の灯火に加え、海上衝突予防法に定められた動力船の 灯火を表示しなければならない。

- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに 誤っている

.....答 (3)

問 19 海上衝突予防法 7 狭い水道等の航法・視界制限状態における航法

①狭い水道等において、A船がB船を追い越そうとする場合、B船がA船を安全に通過させるための動作をとらなければ追い越すことができないときは、A船は、どのような方法でB船に追越しの意図を示さなければならないか。次のうちから選べ。

- (1) 定められた汽笛信号を行う。 (2) 定められた発光信号を行う。 (海上衝突予防法)  
(3) 定められた形象物を掲げる。 (4) 定められた国際信号旗を掲げる。

.....答 (1)

②動力船が濃霧の中を航行するときの措置として誤っているものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 見張りを厳重にする。 (2) 短音 1 回の汽笛信号を繰り返す。  
(3) 法定灯火を表示する。 (4) 機関を直ちに操作できるようにする。

.....答 (2)

③濃霧のために視界が制限された水域を航行中の動力船がとらなければならない措置は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 船位を確認できるようにする。 (2) 機関を直ちに操作できるようにする。  
(3) 測深できるようにする。 (4) 投錨できるようにする。

.....答 (2)

④視界制限状態にある水域を航行中の船舶が、自船の正横より前方に他の船舶の存在をレーダーのみにより探知し、衝突するおそれがあると判断した。この事態を避けるための次の動作のうち、やむを得ない場合を除いてとってはならないものはどれか。

- (1) 機関を後進にかける。 (2) 機関を停止する。 (海上衝突予防法)  
(3) 針路を右に転じる。 (4) 針路を左に転じる。

.....答 (4)

⑤他の船舶の存在や動きをよく判断することができない次の状態のうち、「視界制限状態」に該当しないものはどれか。

- (1) 降雪 (2) 暴風雨 (3) もや (4) 暗夜 (海上衝突予防法)

.....答 (4)

⑥狭い水道等における航法について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選べ。(海上衝突予防法)

(A) 長さ20メートル未満の動力船は、狭い水道等の内側でなければ安全に航行することができない他の動力船の通航を妨げてはならない。

(B) 船舶は、狭い水道においては、やむを得ない場合を除き、錨泊をしてはならない。

- (1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (3)

⑦右図に示すように、狭い水道等のわん曲部に接近する船舶が行った

次の動作のうち、誤っているものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 機関をいつでも操作できるようにした。  
(2) 見張りをする者を増やした。  
(3) できるだけ早く通過するように速力を上げた。  
(4) できる限り右側端に寄って航行した。



.....答 (3)

⑧船舶は、狭い水道では、やむを得ない場合を除き、どのようなことをしてはならないと定められているか。次のうちから選べ。

- (1) 漁ろう (2) 並列航行 (3) 他船の追越し (4) 錨泊 (海上衝突予防法)

.....答 (4)

⑨狭い水道等をこれに沿って航行する船舶は、できる限り、どのように航行しなければならないか。次のうちから選べ。

- (1) 右側端に寄って航行しなければならない。 (海上衝突予防法)  
(2) 中央を航行しなければならない。

- (3) 左側端に寄って航行しなければならない。  
(4) 舵が効く程度の速力で航行しなければならない。

.....答 (1)

⑩視界制限状態における航法について述べた次の文の( )の中に当てはまる適切な語句は、下のうちどれか。(海上衝突予防法)

「動力船は、視界制限状態においては、( )しておかなければならない。」

- (1) 他船と連絡が取れるように
- (2) 機関を直ちに操作できるように
- (3) 直ちに測深できるように
- (4) いつでも投錨できるように

.....答 (2)

⑪右図に示すように、他の船舶を見ることができない狭い水道のわん曲部に接近する船舶が行った次の動作のうち、誤っているものはどれか。(海上衝突予防法)



- (1) 長音 1 回の汽笛信号を行った。
- (2) 左岸側へ寄って航行した。
- (3) 速力を落とした。
- (4) 耳をすました。

.....答 (2)

⑫狭い水道等において、追越し船は、追いつかれる船舶の協力がなければ安全に追いつくことができない場合、どのような処置をとらなければならないか。次のうちから選べ。(海上衝突予防法)

- (1) 追越しの意図を示す汽笛信号を行う。
- (2) 急速に閃光 5 回を発して、注意を呼びかける。
- (3) 十分に近づいて、他船の航行を見守る。
- (4) 速力を上げて、水道等の左側端に寄る。

.....答 (1)

⑬右図に示すように、狭い水道のわん曲部に接近する船舶が行った次の動作のうち、誤っているものはどれか。(海上衝突予防法)



- (1) できるだけ早く通過するように速力を上げた。
- (2) できる限り右側端に寄って航行した。
- (3) 機関をいつでも操作できるようにした。
- (4) 見張りをする者を増やした。

.....答 (1)

⑭障害物があるため他の船舶を見ることができない狭い水道のわん曲部付近を航行中、障害物の背後から他の船舶の長音 1 回の汽笛信号が聞こえたときにとらなければならない処置は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 急速に閃光を 5 回以上発する。
- (2) できる限り水道の左側端に寄って航行する。
- (3) 長音 1 回の汽笛信号を行う。
- (4) そのときの針路と速力を保つようにする。

.....答 (3)

⑮動力船が視界制限状態の水域を航行中、自船の正横より前方に他の船舶の視界制限状態における音響信号を聞いた場合、他の船舶と衝突するおそれがないと判断した場合を除き、どのような処置をとらなければならないか。次のうちから選べ。

- (1) 急速に短音 5 回以上の汽笛信号を行う。
- (2) 大幅に右転する。
- (3) 舵が効く最小限の速力とする。
- (4) 大幅に左転する。

.....答 (3)

⑯船舶は、狭い水道では、やむを得ない場合を除き、どのようなことをしてはならないと定められているか。次のうちから選べ。

(海上衝突予防法)

- (1) 錨泊
- (2) 漁ろう
- (3) 他船の追越し
- (4) 水道の横断

.....答 (1)

⑰長さ12メートル以上の動力船が濃霧の中を航行するときの処置として誤っているものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 見張りを厳重にする。
- (2) 短音 1 回の汽笛信号を繰り返す。
- (3) 法定灯火を表示する。
- (4) 機関を直ちに操作できるようにする。

.....答 (2)

⑱狭い水道等における航法において、狭い水道等の内側でなければ安全に航行することができない他の動力船の通航を妨げてはならないと定められている船舶は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 長さ20メートル未満の動力船 (2) 幅5メートル未満の動力船  
 (3) 喫水2メートル未満の動力船 (4) 総トン数50トン未満の動力船

.....答 (1)

⑲狭い水道等における航法について述べた次の文の( )の中に当てはまる適切な語句は、下のうちどれか。(海上衝突予防法)

「船舶は、狭い水道においては、やむを得ない場合を除き( )をしてはならない。」

- (1) 高速航行 (2) 錨泊 (3) 漁ろう (4) 追越し

.....答 (2)

**問 20 海上衝突予防法 8 灯火**

①次の法定灯火のうち、水平方向の射光範囲が最も広いものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 閃光灯 (2) 船尾灯 (3) マスト灯 (4) 引き船灯

.....答 (1)

②「引き船灯」と同一の射光範囲を有する白色の灯火は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) マスト灯 (2) 船尾灯 (3) 全周灯 (4) 閃光灯

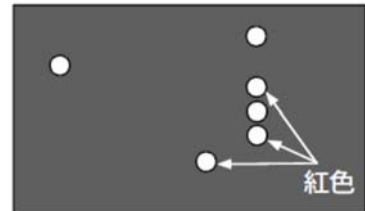
.....答 (2)

③錨泊灯及びマスト灯の表示や射光範囲について述べた次の文のうち、錨泊灯のみに当てはまるものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 視界制限状態においては、日出から日没までの間も表示しなければならない。  
 (2) 水平方向の射光範囲は、船舶の全周にわたらなければならない。  
 (3) 長さ50メートル以上の船舶は、前部及び後部に各1個を表示しなければならない。  
 (4) 2個表示する場合は、前部の灯火は後部の灯火よりも低い位置に表示しなければならない。

.....答 (2)

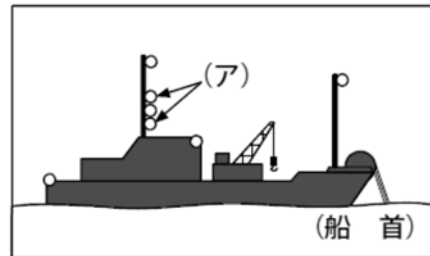
④夜間、右図の灯火を表示している船舶について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。ただし、矢印で示した灯火は紅色で、他は白色とする。(海上衝突予防法)



- (1) 右舷を見せて航行中の長さ50メートル未満の動力船  
 (2) 左舷を見せて航行中の長さ50メートル以上の操縦性能制限船  
 (3) 右舷を見せて乗り揚げている長さ50メートル以上の動力船  
 (4) 左舷を見せて航行中の長さ50メートル未満のトロールにより漁ろうに従事している船舶

.....答 (2)

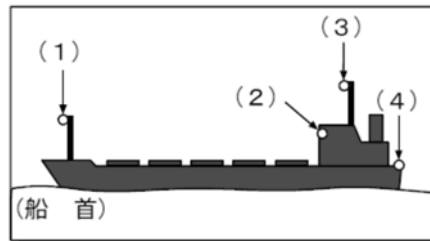
⑤右図は、夜間、長さ50メートル以上の操縦性能制限船が表示しなければならない灯火を、右舷側から示したものである(正横方向からは見えない灯火も図示してある)。図中(ア)の灯火の色は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)



- (1) 緑色 (2) 紅色  
 (3) 黄色 (4) 白色

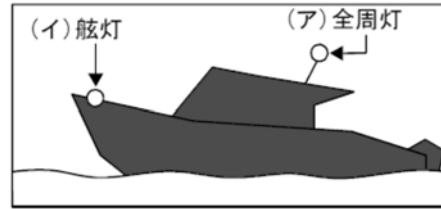
.....答 (2)

⑥右図は、夜間航行中の長さ50メートル以上の動力船が表示している灯火を示したものである(正横方向から見えない灯火も図示してある)。長さ50メートル未満の航行中の動力船が表示しなくてもよい法定灯火は、図中(1)～(4)のうちどれか。(海上衝突予防法)



.....答 (3)

⑦右図は、夜間、左舷側を見せて航行中のモーターボート(長さ10メートル)が表示している灯火を示したものである。図中(ア)および(イ)の灯火の色の組合せとして正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)



- (1) (ア) 白色 (イ) 緑色    (2) (ア) 白色 (イ) 紅色  
 (3) (ア) 緑色 (イ) 白色    (4) (ア) 紅色 (イ) 白色

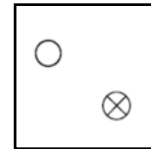
.....答 (2)

⑧法定灯火の種類とその色を示した次の組合せのうち、正しいものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) マスト灯 …… 黄色                    (2) 右舷灯 …… 白色  
 (3) 左舷灯 …… 紅色                    (4) 船尾灯 …… 緑色

.....答 (3)

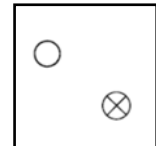
⑨夜間航行中のA船は、前方に右図に示すような灯火を表示しているB船を認めた。この場合、A船から見てB船は、どのように航行していると判断したらよいか。次のうちから選べ。ただし、○は白灯、⊗は緑灯とする。



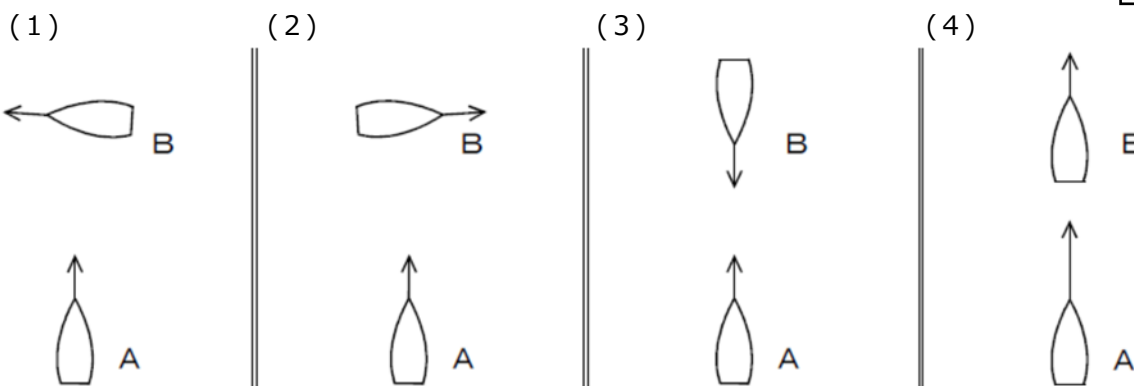
- (1) 左舷側を見せて右から左へ航行している。(海上衝突予防法)  
 (2) 右舷側を見せて左から右へ航行している。  
 (3) 正面を見せてこちらに向かって航行している。  
 (4) 船尾を見せて航行している。

.....答 (2)

⑩夜間航行中のA船は、前方に右図に示すような灯火を表示しているB船を認めた。この場合、A船から見てB船は、どのように航行していると判断したらよいか。次のうちから選べ。ただし、○は白灯、⊗は緑灯とする。



(海上衝突予防法)

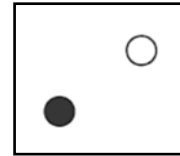


.....答 (2)

⑪ 夜間航行中のA船は、前方に右図に示すような灯火を表示しているB船を認めた。

この場合、A船から見てB船は、どのように航行していると判断したらよいか。

次のうちから選べ。ただし、○は白灯、●は紅灯とする。(海上衝突予防法)

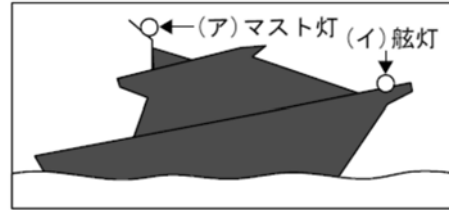


- (1) 左舷側を見せて右から左へ航行している。
- (2) 右舷側を見せて左から右へ航行している。
- (3) 正面を見せてこちらに向かっている。
- (4) 船尾を見せて航行している。

.....答 (1)

⑫ 右図は、夜間、右舷側を見せて航行中のモーターボート(長さ15メートル)

が表示している灯火を示したものである。図中(ア)および(イ)の灯火の色の組合せとして正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)



- (1) (ア) 白色 (イ) 緑色
- (2) (ア) 白色 (イ) 紅色
- (3) (ア) 緑色 (イ) 白色
- (4) (ア) 紅色 (イ) 白色

.....答 (1)

⑬ 法定灯火の水平射光範囲として誤っているものは、次のうちどれか。なお、紙面の上方を船首とし、破線を船舶の中心線とする。(海上衝突予防法)

- (1) マスト灯
- (2) 両色灯
- (3) 船尾灯
- (4) 引き船灯

.....答 (3)

⑭ 法定灯火以外の灯火を表示するときの注意事項として誤っているものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 法定灯火と誤認されやすい灯火を表示してはならない。
- (2) 法定灯火の視認を妨げるような灯火を表示してはならない。
- (3) 日没から日出までの間は表示してはならない。
- (4) 見張りを妨げるような灯火を表示してはならない。

.....答 (3)

⑮ 法定灯火の水平射光範囲として正しいものは、次のうちどれか。なお、紙面の上方を船首とし、破線を船舶の中心線とする。(海上衝突予防法)

(海上衝突予防法)

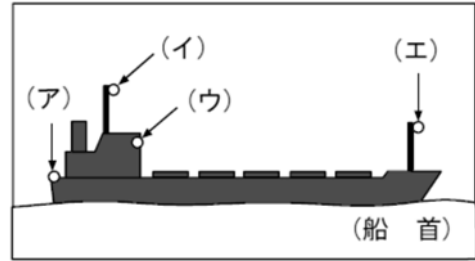
- (1) マスト灯
- (2) 左舷灯
- (3) 船尾灯
- (4) 引き船灯

.....答 (1)



⑯右図は、夜間、右舷側を見せて航行中の動力船(長さ50メートル以上)が表示している灯火を示したものである。図中の灯火について述べた次のうち、正しいものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) (ア)の灯火は、正横方向からは見えない。
- (2) (イ)の灯火は、正船首方向からは見えない。
- (3) (ウ)の灯火の色は、紅色である。
- (4) (エ)の灯火の色は、黄色である。



.....答 (1)

⑰夜間航行中のA船は、前方に右図に示すような灯火を表示しているB船を認めた。この場合、A船から見てB船は、どのように航行していると判断したらよいか。次のうちから選べ。ただし、○は白灯、●は紅灯とする。(海上衝突予防法)

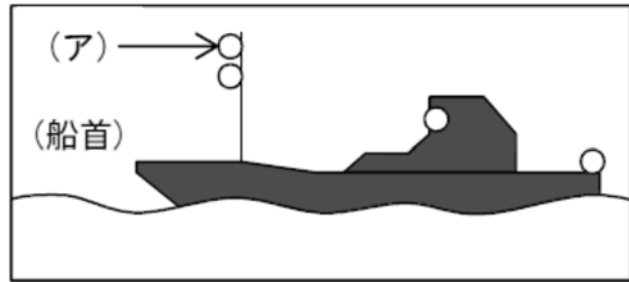
(1) (2)

(3) (4)

.....答 (1)

⑱右図は、夜間、トロールにより漁ろうに従事している船舶(対水速力がある)が表示しなければならない灯火を、左舷側から示したものである(正横方向からは見えない灯火も図示してある)。図中(ア)の灯火の色は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 白色 (2) 黄色 (3) 緑色 (4) 紅色



.....答 (3)



⑲法定灯火の種類とその色の組合せとして誤っているものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) マスト灯 …… 白色 (2) 右舷灯 …… 緑色
- (3) 左舷灯 …… 紅色 (4) 船尾灯 …… 黄色

.....答 (4)

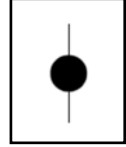
問 21 海上衝突予防法 9 形象物

① 昼間、船舶等を引いている航行中の動力船(曳航物件の後端までの距離が200メートルを超える)が表示しなければならない形象物は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1)  (2)  (3)  (4) 
- ..... 答 (2)





② 昼間、右図の形象物 1 個を表示しているのはどのような船舶か。次のうちから選べ。(海上衝突予防法)

- (1) 乗り揚げている船舶 (2) 漁ろうに従事している船舶  
(3) 錨泊中の船舶 (4) 船舶等を引いている動力船



..... 答 (3)

③ 昼間、操縦性能制限船(長さ12メートル以上)が表示しなければならない形象物は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)


- (1)  (2)  (3)  (4) 
- ..... 答 (4)

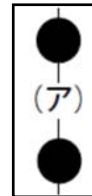
④ 航行中の動力船が、昼間、曳航物件の後端までの距離が200メートルを超える複数の船舶を引いている場合、ひし形の形象物を表示しなければならないのはどの船舶か。次のうちから選べ。(海上衝突予防法)

- (1) 他の船舶を引いている動力船のみ  
(2) 引かれている最後尾の船舶のみ  
(3) 他の船舶を引いている動力船と引かれている最後尾の船舶  
(4) 引き船列のすべての船舶

..... 答 (4)

⑤ 右図は、昼間、操縦性能制限船が表示している形象物である。図中、(ア)の位置の形状は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

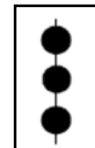
- (1)  (2)  (3)  (4) 



..... 答 (1)





⑥ 昼間、右図の形象物を表示している船舶は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 乗り揚げている船舶 (2) 船舶等を引いている動力船  
(3) 操縦性能制限船 (4) 漁ろうに従事している船舶



..... 答 (1)

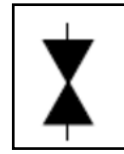
⑦ 昼間、船舶が表示しなければならない形象物とそれを表示している船舶との組合せとして正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1)  ... 錨泊中の船舶 (びょうはく)  
(2)  ... 漁ろうに従事している船舶  
(3)  ... 曳航作業中の船舶 (えいこう)  
(4)  ... 操縦性能制限船

..... 答 (2)

⑧昼間、右図の形象物を表示している船舶は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 運転不自由船
- (2) 船舶等を引いている動力船
- (3) 錨泊中の船舶
- (4) 漁ろうに従事している船舶



.....答 (4)

⑨昼間、船舶が表示しなければならない形象物とそれを表示している船舶との組合せとして正しいものは、次のうちどれか。

(海上衝突予防法)

- (1) ... 錨泊中の船舶
- (2) ... 漁ろうに従事している船舶
- (3) ... 曳航作業中の船舶
- (4) ... 操縦性能制限船

.....答 (3)

⑩昼間、錨泊中の船舶が表示しなければならない形象物は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1)
- (2)
- (3)
- (4)

.....答 (4)

⑪昼間、漁ろうに従事している船舶が表示しなければならない形象物は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1)
- (2)
- (3)
- (4)

.....答 (3)

⑫昼間、船舶が表示しなければならない形象物とそれを表示している船舶との組合せとして正しいものは、次のうちどれか。

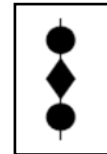
(海上衝突予防法)

- (1) ... 錨泊中の船舶
- (2) ... 漁ろうに従事している船舶
- (3) ... 曳航作業中の船舶
- (4) ... 操縦性能制限船

.....答 (4)

⑬昼間、右図の形象物を表示している船舶は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 運転不自由船
- (2) 船舶等を引いている動力船
- (3) 操縦性能制限船
- (4) 漁ろうに従事している船舶



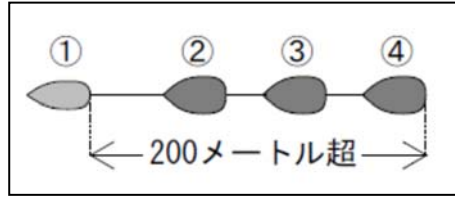
.....答 (3)

⑭「形象物」について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 色はすべて黒色で、大きさは形状ごとに決められている。
- (2) 形状は、「球形」「円すい形」「円筒形」等、全部で10種類以上ある。
- (3) 他の船舶から最も見えやすい場所に表示する。
- (4) 長さ20メートル未満の船舶は、その船舶の大きさに適した大きさのものを表示することができる。

.....答 (2)

⑮右図は、曳航作業を行っている引き船列である。昼間、ひし形の形象物を表示しなければならない船舶は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)



- (1) ①、②、③と④      (2) ①と④  
 (3) ④のみ                (4) ①のみ

.....答 (1)

⑯昼間、船舶が表示しなければならない形象物とそれを表示している船舶との組合せとして正しいものは、次のうちどれか。



.....答 (1)

**問22 海上衝突予防法10 信号**

①「左右に伸ばした腕を繰り返しゆっくり上下させる信号」が意味しているものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 付近に落水者がいる。      (2) 遭難して救助を求めている。  
 (3) 救助作業が終了した。      (4) これから救助に向かう。

.....答 (2)

②視界制限状態にある水域において、長さ12メートル未満の船舶が、2分を超えない間隔で行わなければならない音響信号は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 短音1回、長音2回の汽笛信号      (2) 短音4回の汽笛信号  
 (3) 長音3回の汽笛信号                (4) 有効な音響による信号

.....答 (4)

③短音2回の汽笛信号を行っている船舶は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 針路を右に転じている船舶      (2) 針路を左に転じている船舶  
 (3) 機関を後進にかけている船舶      (4) 他船の動作が理解できない船舶

.....答 (2)

④「左右に伸ばした腕を繰り返しゆっくり上下させる信号」が意味しているものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 付近に落水者がいる。      (2) 遭難して救助を求めている。  
 (3) 救助作業が終了した。      (4) これから救助に向かう。

.....答 (2)

⑤航行中の動力船が行った次の汽笛信号のうち、鳴らさなくてもよいものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 正船首方向から動力船が近づいてきたので、短音1回の汽笛信号を行いながら転舵した。  
 (2) 変針目標とする灯台の真横に来たので、短音2回の汽笛信号を行いながら針路を変えた。  
 (3) 変針して横から来る船の進路を避けようとしたが、予想以上に早く近づいてきたので、短音3回の汽笛信号を行いながら機関を後進にかけて回避した。  
 (4) 狭い水道で、前方を航行する他の船舶の左舷側を追い越そうとしたところ、他船の協力がなければ追い越せない状況だったので、長音2回に引き続く短音2回の汽笛信号を行った。

.....答 (2)

⑥互いに他の船舶の視野の内にある2隻の船舶が近づく場合において、他の船舶のとっている動作を理解することができない場合は、どのような信号を行わなければならないか。次のうちから正しいものを選び。(海上衝突予防法)

- (1) 急速な短音5回以上の汽笛信号
- (2) 長音3回の汽笛信号
- (3) 長音1回、短音2回の汽笛信号
- (4) 順次に長音1回、短音1回、長音1回及び短音1回の汽笛信号

.....答(1)

⑦海上衝突予防法に規定された、船舶が遭難して救助を求める場合の信号として誤っているものは、次のうちどれか。

- (1) 縦に上から国際信号旗のN旗とC旗を揚げる。
- (2) 船舶の甲板上で容器に入れた油を燃やす。
- (3) 2分を超えない間隔で長音1回を鳴らす。
- (4) 左右に伸ばした腕を繰り返しゆっくり上下させる。

.....答(3)

⑧音響信号を行う際に、汽笛及び号鐘にかえて、他の有効な音響によることが認められている船舶は、次のうちどれか。

- (1) 速力7ノット未満の船舶
  - (2) 長さ12メートル未満の船舶
  - (3) 総トン数20トン未満の船舶
  - (4) 喫水5メートル未満の船舶
- (海上衝突予防法)

.....答(2)

⑨短音1回の汽笛信号を行っている船舶は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 機関を後進にかけている船舶
- (2) 他船の動作が理解できない船舶
- (3) 針路を右に転じている船舶
- (4) 針路を左に転じている船舶

.....答(3)

⑩視界制限状態にある水域において、「2分を超えない間隔で長音1回の汽笛信号」を行っている船舶は、次のうちどれか。

- (1) 漁ろうに従事している船舶
  - (2) 錨泊中の操縦性能制限船
  - (3) 対水速力を有する航行中の動力船
  - (4) 運転不自由船
- (海上衝突予防法)

.....答(3)

⑪汽笛信号とそれを行う状況の組合せとして正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 短音1回 ..... 他船を避けるため、針路を左に転じている。
- (2) 短音2回 ..... 他船に針路を保つよう依頼している。
- (3) 短音3回 ..... 他船を避けるため、針路を右に転じている。
- (4) 急速に短音5回以上 ... 他船の衝突を避ける動作に疑いを持っている。

.....答(4)

⑫急速に短音5回以上の汽笛信号を行っている船舶は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 針路を右に転じている船舶
- (2) 針路を左に転じている船舶
- (3) 機関を後進にかけている船舶
- (4) 他船の動作が理解できない船舶

.....答(4)

⑬短音3回の汽笛信号を行っている船舶は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 針路を右に転じている船舶
- (2) 針路を左に転じている船舶
- (3) 他船の動作が理解できない船舶
- (4) 機関を後進にかけている船舶

.....答(4)

⑭海上で行った次の動作のうち、海上衝突予防法の規定に違反しないものはどれか。

- (1) 仲間の船に合図を送る必要があったので、赤色の手持ち炎火を振りかざした。
- (2) 航行できなくなったので、容器に入れた油を船上で燃やして救助を求めた。
- (3) 遊覧船が近くを通ったので、左右に伸ばした腕をゆっくり上下させて挨拶をした。
- (4) 釣りをするために錨泊したので、縦に上から国際信号旗のN旗とC旗を揚げた。

.....答(2)

⑮航行中の動力船が、汽笛信号を行わなくてもよい場合は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 他船を避航するため、機関を後進にかけているとき
- (2) 進路上の漂流物を避けるため、針路を転じているとき
- (3) 他船を見ることができない、狭い水道のわん曲部に近づくとき
- (4) 狭い水道で、前を行く船に安全な追越しのための協力動作を依頼するとき

.....答 (2)

⑯近づいてくる他の船舶と衝突するおそれがある場合で、他の船舶の意図や動作を理解できないときは、どのような汽笛信号を行わなければならないか。次のうちから選べ。(海上衝突予防法)

- (1) 短音 1 回 (2) 短音 2 回 (3) 短音 3 回 (4) 急速に短音 5 回以上

.....答 (4)

⑰汽笛信号とそれを行う状況の組合せとして正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 短音 1 回 ..... 他船と行き会うため、針路を左に転じている。
- (2) 短音 2 回 ..... 他船の避航動作に協力するため、針路を右に転じている。
- (3) 短音 3 回 ..... 他船を避けるため、機関を後進にかけている。
- (4) 急速に短音 5 回以上 ... 他船に針路を保つよう依頼している。

.....答 (3)

⑱視界制限状態にある水域を航行中の帆船(長さ12メートル以上)が、2分を超えない間隔で行わなければならない汽笛信号は、次のうちどれか。ただし、———— は長音、— は短音とする。(海上衝突予防法)

- (1) ———— ————
- (2) ———— ———— ————
- (3) ———— ———— ————
- (4) ———— ———— ————

.....答 (1)

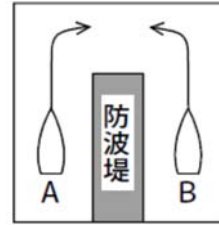
⑲海上衝突予防法に規定された、船舶が遭難して救助を求める場合の信号として誤っているものは、次のうちどれか。

- (1) 縦に上から国際信号旗のN旗とC旗を掲げる。
- (2) 船舶の甲板上で容器に入れた油を燃やす。
- (3) 2分を超えない間隔で長音 1 回の汽笛信号を鳴らす。
- (4) 左右に伸ばした腕を繰り返しゆっくり上下させる。

.....答 (3)

**問23 港則法1 港内での一般的な航法**

①港内を、右図に示すように航行する場合のA、B両船の航法として正しいものは、次のうちどれか。(港則法)



- (1) A、Bともに、防波堤から遠ざかって航行する。
- (2) Aは防波堤から遠ざかって航行し、Bは防波堤に近寄って航行する。
- (3) 速いほうの船舶が、他船の進路を避ける。
- (4) Aは防波堤に近寄って航行し、Bは防波堤から遠ざかって航行する。

.....答 (4)

②特定港内における行事又は作業のうち、あらかじめ港長の許可を受けて行えるものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) ボートの競技会
- (2) バラストやゴミの投棄
- (3) 港内での漁ろう
- (4) 強力な灯火の使用

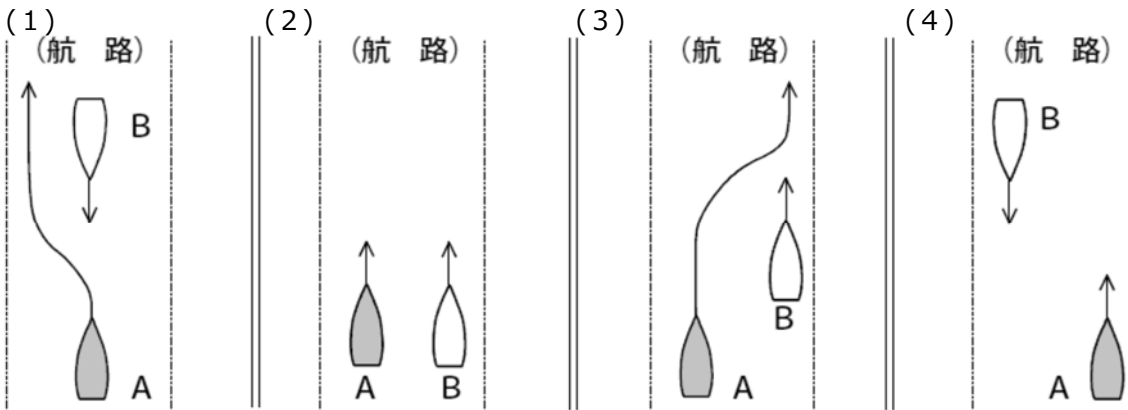
.....答 (1)

③港内における航法について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。(港則法)

- (1) 防波堤の突端を右舷に見て航行するときは、できるだけこれから遠ざかって航行しなければならない。
- (2) 汽船が防波堤の入口付近で他の汽船と出会うおそれのあるときは、出航する汽船は入航する汽船の進路を避けなければならない。
- (3) 帆船は、港内では、帆を縮めるか引船を用いて航行しなければならない。
- (4) 航路内で他の船舶の左舷側を追い越す場合は、長音2回の汽笛信号を行わなければならない。

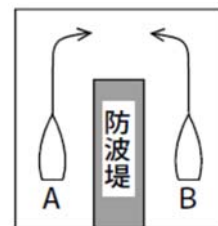
.....答 (3)

④下図は、A船とB船が港内の航路を航行している状況を示したものである。A船のとった航法として正しいものは、図(1)～(4)のうちどれか。(港則法)



.....答 (4)

⑤港内を、右図に示すように航行する場合のA、B両船の航法として正しいものは、次のうちどれか。(港則法)



- (1) Aは防波堤に近寄って航行し、Bは防波堤から遠ざかって航行する。
- (2) Aは防波堤から遠ざかって航行し、Bは防波堤に近寄って航行する。
- (3) A、Bともに防波堤から遠ざかって航行する。
- (4) A、Bともに速力を落としながら、防波堤に近寄って航行する。

.....答 (1)

⑥港内の航路における航法として誤っているものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) やむを得ない場合や許可を受けた場合を除いて、投錨してはならない。
- (2) 他の船舶と行き会うときは、右側を航行しなければならない。
- (3) 前方に遅い他の船舶があるときは、これを追い越して航行しなければならない。
- (4) 他の船舶と横に並んで航行してはならない。

.....答 (3)

⑦港内の航路において、投錨することが認められない場合は、次のうちどれか。(港則法)

- (1) 海難を避けようとする場合 (2) 漁網を引き揚げている場合  
 (3) 運転の自由を失った場合 (4) 許可を受けて工事を行う場合

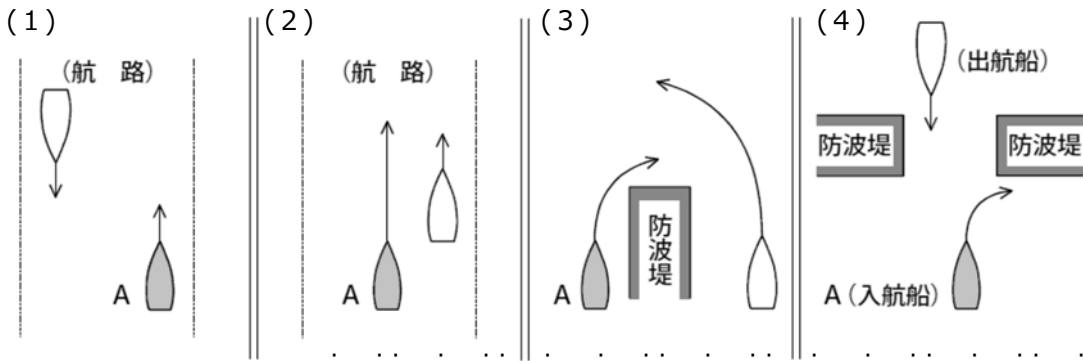
.....答 (2)

⑧港内における航法について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。(港則法)

- (1) 防波堤の突端を左舷に見て航行するときは、できるだけこれから遠ざかって航行しなければならない。  
 (2) 汽船が防波堤の入口付近で他の汽船と出会うおそれがあるときは、出航する汽船が入航する汽船の進路を避けなければならない。  
 (3) 航路を航行する船舶は、航路外から航路に入ろうとする船舶の進路を避けなければならない。  
 (4) 航路内で他の船舶と行き会うときは、左側を航行しなければならない。

.....答 (1)

⑨下図は、港内を航行しているA船の状況を示したものである。A船のとった航法のうち、誤っているものはどれか。(港則法)



.....答 (2)

⑩港内における航法について述べた次の文の( )の中に当てはまる適切な語句は、下のうちどれか。(港則法)

「船舶は、港内及び港の境界付近においては、( )のような速力で航行しなければならない。」

- (1) 12ノットを超えない (2) 引き波を立てない  
 (3) 他の船舶に危険を及ぼさない (4) 周囲の安全確認が確実にできる

.....答 (3)

⑪港内の航路における航法として誤っているものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) 航路外から航路に入ろうとする船舶は、航路を航行する船舶の進路を避けなければならない。  
 (2) 航路内で、他の船舶と行き会うときは、右側を航行しなければならない。  
 (3) 航路内で、前方に遅い他の船舶があるときは、これを追い越して航行しなければならない。  
 (4) 航路内では、船舶は横に並んで航行してはならない。

.....答 (3)

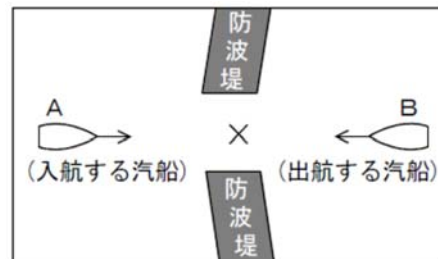
⑫港内における航法について述べた次の文の( )の中に当てはまる適切な語句は、下のうちどれか。

「船舶は、港内においては、防波堤などの突端や停泊船舶を( )に見て航行するときは、できるだけこれに近寄って航行しなければならない。」 (港則法)

- (1) 右舷 (2) 左舷 (3) 風上側 (4) 風下側

.....答 (1)

⑬右図に示すように、港内を航行中の2隻の船舶が×印の付近で出会うおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(港則法)



- (1) A、Bともに右側に寄って航行する。  
 (2) A、Bともに左側に寄って航行する。  
 (3) Aは防波堤の外でBを避け、Bはそのまま出航する。  
 (4) Bは防波堤の内側でAを避け、Aはそのまま入航する。

.....答 (3)



⑭港内における航法について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。(港則法)

- (1) 航路を航行する船舶は、航路外から航路に入ろうとする船舶の進路を避けなければならない。
- (2) 航路内で他の船舶と行き会うときは、右側を航行しなければならない。
- (3) 汽船が防波堤の入口付近で他の汽船と出会うおそれのあるときは、出航する汽船は入航する汽船の進路を避けなければならない。
- (4) 防波堤の突端を左舷に見て航行するときは、できるだけこれに近寄って航行しなければならない。

.....答 (2)

⑮港内における航法として誤っているものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) 航路内では、海難を避けようとするときや人命を救助するときなどを除き、投錨してはならない。
- (2) 汽船が港の防波堤の入口付近で他の汽船と出会うおそれのあるときは、入航船は、防波堤の外で出航船の進路を避けなければならない。
- (3) 港内及び港の境界付近においては、他の船舶に危険を及ぼさないような速力で航行しなければならない。
- (4) 防波堤の突端を左舷に見て航行するときは、できるだけこれに近寄って航行しなければならない。

.....答 (4)

⑯港内における航法について述べた次の文の( )の中に当てはまる適切な語句は、下のうちどれか。

「船舶は、港内においては、防波堤などの突端や停泊船舶を( )に見て航行するときは、できるだけこれから遠ざかって航行しなければならない。」(港則法)

- (1) 風上側 (2) 風下側 (3) 左舷 (4) 右舷

.....答 (3)

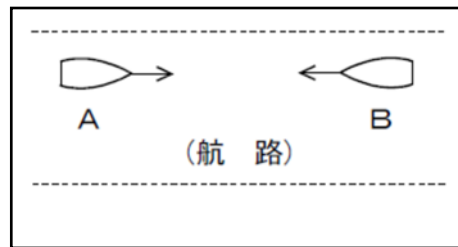
⑰港内の航路における航法として誤っているものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) 航路を航行する船舶は、航路外から航路に入ろうとする船舶の進路を避けなければならない。
- (2) 航路内において、他の船舶と行き会うときは、右側を航行しなければならない。
- (3) 航路内においては、船舶が横に並んで航行してはならない。
- (4) 航路内においては、他の船舶を追い越してはならない。

.....答 (1)

⑱右図に示すように、港内を航行中の2隻の船舶が航路内で行き会うときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) Aは針路を右に転じて、航路の右側を航行する。
- (2) Bは針路を左に転じて、航路の左側を航行する。
- (3) A、Bともに針路を右に転じて、他船の進路を避ける。
- (4) A、Bともに針路を左に転じて、他船の進路を避ける。



.....答 (1)

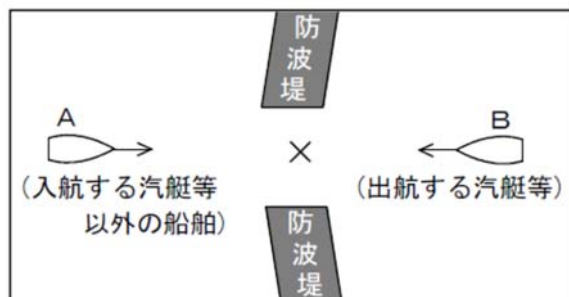
⑲船舶は、港内及び港の境界付近においては、どのような速力で航行しなければならないと定められているか。次のうちから選べ。(港則法)

- (1) 他の船舶に危険を及ぼさないような速力 (2) 引き波を立てないような速力
- (3) 12ノット以下の速力 (4) 周囲の安全確認が確実にできるような速力

.....答 (1)

⑳右図に示すように、港内を航行中の2隻の船舶が×印の付近で出会うおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) A、Bともに、右側に寄って航行する。
- (2) 防波堤から遠いほうの船舶が相手船を避ける。
- (3) Aは防波堤の外でBを避け、Bはそのまま出航する。
- (4) Bは防波堤の内側でAを避け、Aはそのまま入航する。



.....答 (4)

②港内における航法として誤っているものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) 航路内で、他の船舶と行き会うときは、右側を航行しなければならない。
- (2) 港内においては、他の船舶に危険を及ぼさないような速力で航行しなければならない。
- (3) 汽船が港の防波堤の入口付近で他の汽船と出会うおそれのあるときは、入航船は、防波堤の外で出航船の進路を避けなければならない。
- (4) 防波堤の突端を左舷に見て航行するときは、できるだけこれに近寄って航行しなければならない。

.....答 (4)

<b>問 24 港則法 2 汽艇等・水路の保全・灯火・漁労・喫煙</b>	※平成 28 年 11 月から「雑種船」から「汽艇等」へ呼称変更されました。
--------------------------------------	--

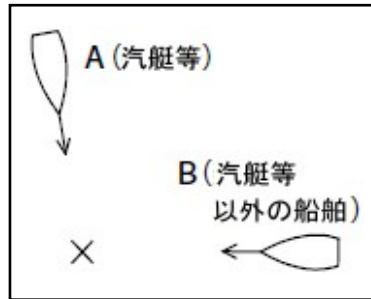
①汽艇等の船長が港内でとった行動のうち港則法の規定に違反しないものは、次のうちどれか。

- (1) 航路内で投錨し、航路を行き交う船を見学した。
- (2) 港の境界から500m外側に出たので、船内にたまっていたゴミを捨てた。
- (3) 防波堤の外側に設置された係船浮標に係留して釣りをした。
- (4) 航路の外側を航行して港外に出た。

.....答 (4)

②右図に示すように、港内を航行中の2隻の船舶が互いに進路を横切り、×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) Aは針路、速力を保ち、BがAの進路を避ける。
- (2) Bは針路、速力を保ち、AがBの進路を避ける。
- (3) A、Bともに針路を右に転じ、他船の進路を避ける。
- (4) 速いほうの船舶が、他船の進路を避ける。



.....答 (2)

③港内における汽艇等に関する規定について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(港則法)

- (1) みだりに船舶交通の妨げとなるような場所に停泊してはならない。
- (2) みだりに船舶交通の妨げとなるような場所に停留してはならない。
- (3) みだりに係船浮標に係留してはならない。
- (4) みだりに汽艇等以外の船舶を避航してはならない。

.....答 (4)

④港内における制限事項について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(港則法)

- (1) 夜間、港内を航行する船舶は、海上衝突予防法に規定する灯火をみだりに表示してはならない。
- (2) みだりに、バラスト、廃油、石炭から、ゴミその他これに類する廃物を捨ててはならない。
- (3) 船舶交通の妨げとなるおそれのある場所では、みだりに漁ろうをしてはならない。
- (4) 港長の許可を受けずに、特定港内でボート競技やヨット競技を行ってはならない。

.....答 (1)

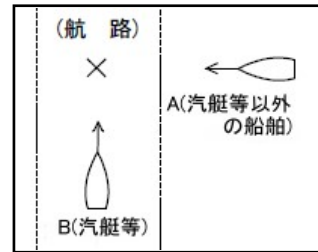
⑤船灯の表示について述べた次の文の( )の中に当てはまる適切な語句は、下のうちどれか。(港則法)

「夜間、港内を航行中のろかいを用いている船舶及び長さ( )未満の帆船は、海上衝突予防法の規定による灯火を表示している場合を除き、常時、白色の携帯電灯又は点火した白灯を周囲から最も見えやすい場所に表示しなければならない。」

- (1) 7メートル (2) 12メートル (3) 20メートル (4) 50メートル

.....答 (1)

⑥右図に示すように、港内の航路を横切ろうとするA船と、航路をこれに沿って航行しているB船が×印の付近で衝突するおそれのあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(港則法)



- (1) 航路航行船が優先なので、AがBを避ける。
- (2) 汽艇等以外の船舶が優先なので、BがAを避ける。
- (3) 速いほうの船舶が優先なので、遅いほうが避ける。
- (4) 優先規定はなく、A、Bともに針路を右に転じる。

.....答 (2)

⑦「汽艇等」について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。(港則法)

- (1) 港内であれば、どのような場所に停泊してもよい。
- (2) 港内にある係船浮標であれば、いつでも係留してもよい。
- (3) 特定港を出入するときは、航路を航行しなくてもよい。
- (4) 港内では、汽艇等以外の船舶を避けなくてもよい。

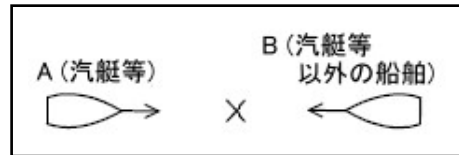
.....答 (3)

⑧夜間、港内を航行中の長さ7メートル未満の帆船及びろかいを用いている船舶は、海上衝突予防法に規定された灯火を表示している場合を除き、何色の灯火1個を常時表示しなければならないか。次のうちから選べ。(港則法)

- (1) 白色 (2) 黄色 (3) 紅色 (4) 緑色

.....答 (1)

⑨右図に示すように、港内を航行中の2隻の船舶が×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(港則法)



- (1) AがBの進路を避ける。
- (2) BがAの進路を避ける。
- (3) A、Bともに針路を右に転じ、他船の進路を避ける。
- (4) 速いほうの船舶が、他船の進路を避ける。

.....答 (1)

⑩「汽艇等」について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。(港則法)

- (1) 港内であれば、どのような場所に停泊してもよい。
- (2) 港内であれば、どのような場所で漁ろうしてもよい。
- (3) 港内にある係船浮標であれば、いつでも係留してもよい。
- (4) 特定港に出入するときは、航路を航行してもよい。

.....答 (4)

⑪「汽艇等」について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(港則法)

- (1) みだりに船舶交通の妨げとなるような場所に停泊してはならない。
- (2) みだりに係船浮標や他の船舶に係留してはならない。
- (3) 特定港に出入するときは航路を航行してはならない。
- (4) 港内では、汽艇等以外の船舶の進路を避けなければならない。

.....答 (3)

⑫港内における制限事項として規定されていないものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) 港内においては、相当の注意をしないで、停泊船の付近で喫煙をしてはならない。
- (2) 船舶は、港内においては、みだりに汽笛又はサイレンを吹き鳴らしてはならない。
- (3) 船舶交通の妨げとなるおそれのある港内の場所においては、みだりに漁ろうをしてはならない。
- (4) 港内又は港の境界付近における船舶交通の妨げとなるおそれのある強力な灯火をみだりに使用してはならない。

.....答 (1)

⑬港内における制限事項について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(港則法)

- (1) 夜間、港内を航行する船舶は、みだりに海上衝突予防法に規定する灯火を表示してはならない。
- (2) 港内では、みだりに汽笛又はサイレンを吹き鳴らしてはならない。
- (3) 船舶交通の妨げとなるおそれのある港内の場所では、みだりに漁ろうしてはならない。
- (4) 港内では、相当の注意をしないうで、油送船の付近で喫煙してはならない。

.....答 (1)

⑭港内において、汽艇等が守らなければならない事項について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(港則法)

- (1) 汽艇等以外の船舶の進路を避けなければならない。
- (2) みだりに係船浮標に係留してはならない。
- (3) 引船を用いて航行しなければならない。
- (4) みだりに他の船舶の交通の妨げとなるおそれのある場所に停泊してはならない。

.....答 (3)

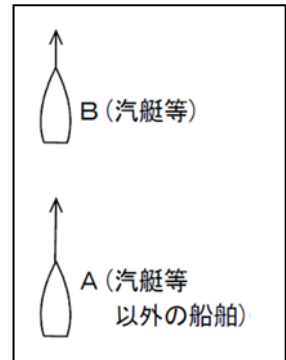
⑮汽艇等の船長が港内でとった行動のうち港則法の規定に違反しないものは、次のうちどれか。

- (1) 航路内で投錨し、航路を行き交う船を見学した。
- (2) 港の境界から500m外側に出たので、船内にたまっていたゴミを捨てた。
- (3) 防波堤の外側に設置された係船浮標に係留して釣りをした。
- (4) 航路の外側を航行して港外に出た。

.....答 (4)

⑯右図に示すように、港内を航行中のA船がB船を追い越そうとする場合の航法として正しいものは、次のうちどれか。(港則法)

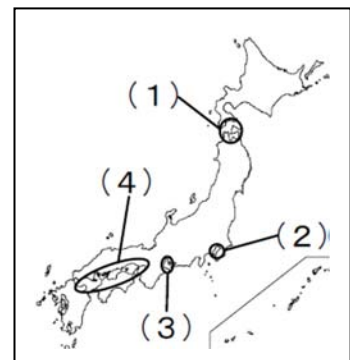
- (1) AがBの進路を避ける。
- (2) BがAの進路を避ける。
- (3) Aは右に、Bは左にそれぞれ針路を転じ、他船を避ける。
- (4) Aは左に、Bは右にそれぞれ針路を転じ、他船を避ける。



.....答 (2)

問 25 海上交通安全法

①右の概略の日本地図に示した海域A～Dのうち、海上交通安全法が適用されないところはどこか。



.....答 (1)

②昼間、紅白の吹流しを表示して航路を航行している船舶は、次のうちどれか。(海上交通安全法)

- (1) 緊急用務船 (2) 消防設備船 (3) 進路警戒船 (4) 工事作業船

.....答 (3)

③海上交通安全法の適用海域と、その海域に設けられた航路を示した次の組合せのうち、誤っているものはどれか。

- (1) 伊勢湾 ..... 伊良湖水道航路 (2) 東京湾 ..... 水島航路  
 (3) 瀬戸内海 ..... 備讃瀬戸東航路 (4) 瀬戸内海 ..... 来島海峡航路

..... 答 (2)

④海上交通安全法で定める航路を航行しなければならない船舶は、長さ何メートル以上の船舶か。次のうちから選べ。

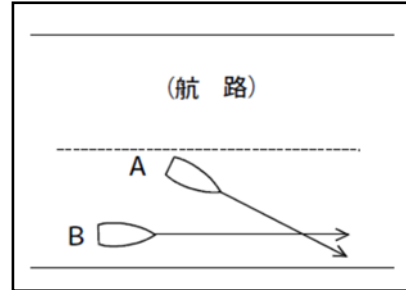
- (1) 5メートル (2) 12メートル (3) 20メートル (4) 50メートル

..... 答 (4)

⑤右図に示すように、航路内を航行中のA、B両船の進路が交差し、衝突するおそれがある場合の航法として正しいものは、次のうちどれか。

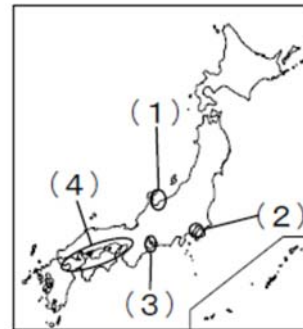
(海上交通安全法)

- (1) Aは追い越される船なので、針路、速力を保つ。  
 (2) Aは左転して航路に沿って航行し、Bが通過した後、元の針路に戻す。  
 (3) Bは針路を保ったまま速力を落とし、Aが通過した後、元の速力に戻す。  
 (4) Bは左転して、Aの左舷側を追い越す。



..... 答 (2)

⑥右の概略の日本地図に示した海域(1)~(4)のうち、海上交通安全法が適用されない海域はどこか。



..... 答 (1)

⑦海上交通安全法の適用海域と、その海域に設けられた航路を示した次の組合せのうち、誤っているものはどれか。

- (1) 東京湾 ..... 浦賀水道航路 (2) 伊勢湾 ..... 伊良湖水道航路  
 (3) 瀬戸内海 ..... 中ノ瀬航路 (4) 瀬戸内海 ..... 水島航路

..... 答 (3)

⑨海上交通安全法で定める航路について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。

- (1) すべての航路に速力の制限区間が設けられている。  
 (2) 長さ50メートル以上の船舶は、航路を航行しなければならない。  
 (3) すべての航路に横断禁止区間が設けられている。  
 (4) 他の船舶の航行の支障にならなければ、航路内で錨泊してもよい。

..... 答 (2)

⑩海上交通安全法の適用海域と、その海域に設けられた航路を示した組合せとして正しいものは、次のうちどれか。

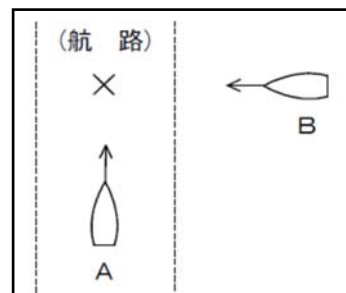
- (1) 東京湾 ..... 浦賀水道航路 (2) 伊勢湾 ..... 水島航路  
 (3) 瀬戸内海 ..... 中ノ瀬航路 (4) 瀬戸内海 ..... 伊良湖水道航路

..... 答 (1)

⑪右図に示すように、航路内を航行中のA船と、航路を横切ろうとするB船の進路が交差し、×印の付近で衝突するおそれがある場合の航法として正しいものは、次のうちどれか。

(海上交通安全法)

- (1) AがBの進路を避ける。  
 (2) BがAの進路を避ける。  
 (3) 互いに針路を右に転じる。  
 (4) 互いに針路を左に転じる。



..... 答 (2)

⑫海上交通安全法の適用海域と、その海域に設けられた航路を示した次の組合せのうち、誤っているものはどれか。

- (1) 東京湾 …………… 浦賀水道航路 (2) 瀬戸内海 …………… 伊良湖水道航路  
 (3) 東京湾 …………… 中ノ瀬航路 (4) 瀬戸内海 …………… 水島航路

……………答 (2)

⑬海上交通安全法の航法について述べた次の文の( )の中に当てはまる正しい語句は、下のうちどれか。

「海上交通安全法で定める航路を航行しなければならない船舶は、( )以上の船舶である。」

- (1) 定員5名 (2) 長さ50メートル (3) 総トン数50トン (4) 幅5メートル

……………答 (2)

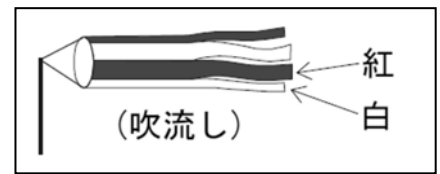
⑭海上交通安全法で定める航路における一般的な航法として誤っているものは、次のうちどれか。

- (1) 航路を横断する場合は、できる限り直角に近い角度で、すみやかに横断しなければならない。  
 (2) 航路では、海難を避けるときや、他の船舶を救助するときなどを除いて、錨泊してはならない。  
 (3) 航路外から航路に入ろうとする船舶は、航路をこれに沿って航行している船舶の進路を避けなければならない。  
 (4) 長さ12メートル未満の船舶は、定められた地点間を航行するときは、航路を航行してはならない。

……………答 (4)

⑮昼間、右図の標識を掲げている船舶は、次のうちどれか。(海上交通安全法)

- (1) 緊急用務船 (2) 危険物積載船  
 (3) 航路を横断中の船舶 (4) 進路警戒船



……………答 (4)

問 26 湖川・特定海域での交通方法・都道府県条例

①河川や湖沼における船舶の交通ルールについて述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 水上安全条例によって、船舶の通航方法を定めている水域がある。  
 (2) 河川法に基づき、船舶の通航方法を指定している水域がある。  
 (3) 海域に直接通じる河川の河口付近では、海上交通安全法が適用される。  
 (4) 港則法に定める特定港の港の区域であれば、河川であっても港則法が適用される。

……………答 (3)

②次の河川通航標識のうち「動力船通航禁止」を表すものはどれか。(河川法)

- (1) (2) (3) (4)

……………答 (3)

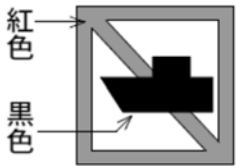
③次の河川通航標識のうち「行会い・追越し禁止」を表すものはどれか。(河川法)

- (1) (2) (3) (4)

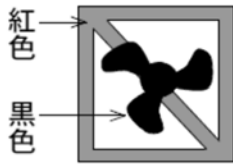
……………答 (2)

④ 次の河川通航標識のうち「引き波禁止」を表すものはどれか。(河川法)

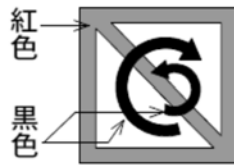
(1)



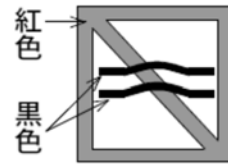
(2)



(3)



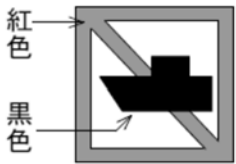
(4)



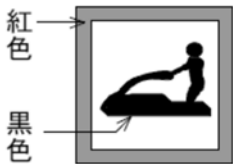
.....答 (4)

⑤ 次の河川通航標識のうち「船舶等通航禁止」を表すものはどれか。(河川法)

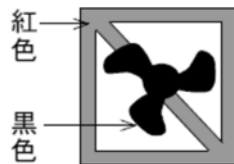
(1)



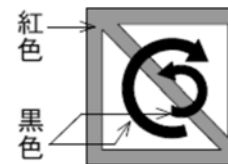
(2)



(3)



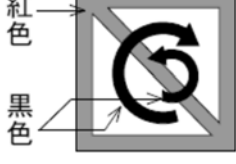
(4)



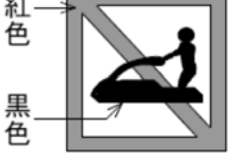
.....答 (1)

⑥ 次の河川通航標識のうち「水上オートバイ禁止」を表すものはどれか。(河川法)

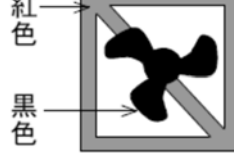
(1)



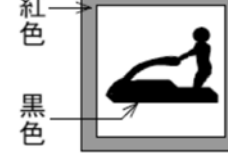
(2)



(3)



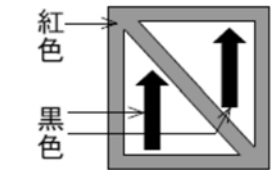
(4)



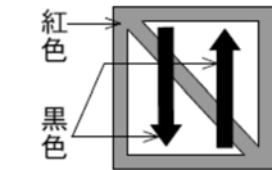
.....答 (2)

⑦ 次の河川通航標識のうち「追い越し禁止」を表すものはどれか。(河川法)

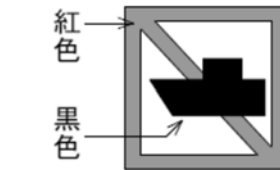
(1)



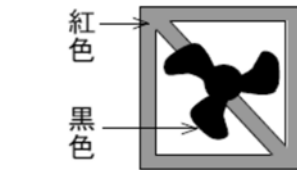
(2)



(3)



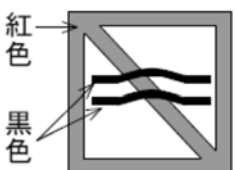
(4)



.....答 (1)

⑧ 次の河川通航標識のうち「水上オートバイ通航方法制限」を表すものはどれか。(河川法)

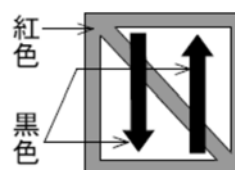
(1)



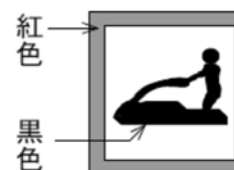
(2)



(3)



(4)



.....答 (4)

⑨ 河川や湖沼における船舶の交通ルールについて述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 国土交通省が河川法に基づき、船舶の通航方法を定めている水域がある。
- (2) 地方自治体が条例に基づき、船舶の通航を制限している水域がある。
- (3) 地方自治体が条例に基づき、船舶の騒音を規制している水域がある。
- (4) 国土交通省が海上衝突予防法に基づき、違反者の取締りを行っている水域がある。

.....答 (4)

⑩水上安全条例について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。

- (1) 国土交通省が、違反者の取締りを行っている水域がある。
- (2) 条例により、船舶の航行を制限したり騒音を規制している水域がある。
- (3) 条例に違反しても、<sup>ちようえき</sup>懲役や罰金などの罰則は適用されない。
- (4) 条例が定められているのは、大きな湖がある県だけである。

.....答 (2)

⑪河川<sup>こしやう</sup>や湖沼における船舶の交通ルールについて述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 海域に直接通じる河川の河口付近では、海上衝突予防法が適用される。
- (2) 海域とつながっていない内陸の湖沼では、海上交通安全法が適用される。
- (3) 国土交通省が河川法に基づいて、船舶の通航方法を定めている水域がある。
- (4) 地方自治体が条例を設け、船舶の通航を制限している水域がある。

.....答 (2)

⑫河川<sup>こしやう</sup>や湖沼における船舶の交通ルールについて述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 一部の河川では、国土交通省が河川法に基づいて船舶の通航方法を定めている。
- (2) 一部の河川では、地方自治体が条例に基づいて船舶の通航を制限している。
- (3) 条例により、モーターボートなどによる危険行為を禁止している地方自治体がある。
- (4) 条例に規定された交通ルールに違反しても、<sup>ちようえき</sup>懲役や罰金などの罰則は適用されない。

.....答 (4)

⑬河川<sup>こしやう</sup>や湖沼における船舶の交通ルールについて述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 国土交通省が河川法に基づき、船舶の通航方法を定めている水域がある。
- (2) 遊泳者の安全を確保するため、条例によって動力船の航行を制限している地方自治体がある。
- (3) 条例には、交通ルール違反にともなう懲役や罰金などの罰則規定はない。
- (4) 条例により、航行禁止区域や停留禁止区域を設けている地方自治体がある。

.....答 (3)

⑭水上安全条例について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 海上衝突予防法や港則法が適用されない内水面での交通の方法について規定している。
- (2) 条例により、船舶の航行を制限したり騒音を規制している水域がある。
- (3) 条例に違反した者の取締りは、国土交通省が行っている。
- (4) 条例に違反した場合には、懲役や罰金などの罰則が適用されることがある。

.....答 (3)

⑮水上安全に関する条例について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 水域利用者の遵守事項や船舶の交通ルールなどについて規定している。
- (2) 水上安全指導員は、水上交通の安全や事故防止などについての指導や啓発活動を行っている。
- (3) 条例に違反した者の取締りは、各都道府県の警察が行っている。
- (4) 条例に違反しても、<sup>ちようえき</sup>懲役や罰金などの罰則は適用されない。

.....答 (4)

⑯河川<sup>こしやう</sup>や湖沼における船舶の交通ルールについて述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 条例により、船舶の通航を制限している水域がある。
- (2) 河川法に基づき、船舶の通航方法を定めている水域がある。
- (3) 河川の河口付近では、海上交通安全法の航法が適用される水域がある。
- (4) 条例により、航行する船舶の騒音を規制している水域がある。

.....答 (3)



⑰水上安全に関する条例について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。

- (1) 条例により、各都道府県が独自に定めた標識を設置している水域がある。
- (2) 条例に違反した者の取締りは、各都道府県の水上安全指導員が行っている。
- (3) 条例に違反しても、懲役や罰金などの罰則は適用されない。
- (4) 条例が定められているのは、滋賀県と山梨県のみである。

.....答 (1)